Mar. 1901
no. 514

明治三十四年三月廿五日

女學雜誌

第五百十四號

明治三十二年五月十四日第三種郵便物認可

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

第五百十四號目次

◎社說
理想なし感激なし
意氣契合崇仰禮拜
星亨論
竹の園生の風
日本倶樂部に於ける伊藤侯大隈伯等の談話

◎女學
婦人の修養に就て(下)……青柳有美

◎瀧頭餘感
或問(一)……新井奥邃
川井運吉君が送る歌一首……紫苑

◎藻鹽草
想餘集(其二)……香雪の子
暗涙……愛花女
義人は叫ばる 宗教家に對する大警告……朝天行
戀愛文學の擡頭に出す……後藤宙外

◎評論
最近の時論と家庭……山形東根
木かげの虫の音……しづ子

◎雜錄
博士新渡戸稻造氏の演說(其二)……[illegible]記
郎君の洋行を送りて……小ゆき

◎隨感
不惑人不知、惑不知人○見ぬ戀、盲人の戀○天文に觀る

◎時報

女學雜誌大賣捌

東京 上田屋
東京堂

●女學雜誌定價表●

前金	廣告料	送金
壹冊定價 拾錢 半年分定價 壹圓拾錢 一年分定價 貳圓拾圓 (內國無郵稅) ◎代金は總して前金にて御注文ありたし年來引續購讀の諸君にて前金切れ候共御斷無之間は引續き發送するとも可有之事 但し其節は總て一冊十錢の割にて計算し追て請求可致事恐れ入るに不本意乍ら計算の煩はしき不得止左樣仕候間かねて御承知被下度候	一行(廿二字詰)一回 前金拾錢 同 三回以上 一割引 同 六回以上 二割引	送金は東京巣鴨郵便支局に宛て小爲替にせられたし郵便切手にて送らるる人は總べて一割増にて計算せられたし

明治三十四年三月廿四日印刷
明治三十四年三月廿五日發行
發行兼編輯人 巖本善治
印刷人 布川孫市
東京府北豐島郡巣鴨村字庚申塚二百四十六番地
發行所 女學雜誌社
東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
印刷所 株式會社秀英舍第一工場
(電話番町十九番)

廣告

明治女學校廣告

增築落成に付志願者に入門を許す但し志願者は四月二十日前に履歷書を添え申込るべし校則は所望の仁に送與すべきに付其旨申込るべし(郵劵二錢封入郵書にて)

東京巣鴨庚申塚
明治女學校

角筈女學校廣告

此度び高等女學校令に據り校則を變更す有志者は早々入學申込るべし

四谷角筈村
角筈女學校
校長 加藤勝彌
敎頭 永島忠重
講師 湯谷磋一郎
同 祠邊龜太郎

○齒科塾生 十四五歲强壯ノ男子(可成基敎信徒ノ子弟)但シ確實ノ保證人ヲ要ス
東京本所二
高橋姉弟合同齒科醫院

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

明治三十四年三月二十五日發

第五百拾四號

社説

理想なし感激なし

方今の大弊は、二言にして盡す。曰く、理想なし、曰く、感激なし。二つの事、二にあらずして一なり。上より臨むもの、感激となり、下より窺がふもの、理想となる。理想なき時は感激せしむるものありとも感激することなく、感激なき時は、理想すべきものありとも理想することなし。故に、理想なく、感激なきは、心態同樣の狀景より發動す。同もに是れ情火の燃えざる時、心血の湧かざる時、靈感の鈍れる時、献牲の起らざる時にして、人に在ては慨氣なく、激氣なく、公憤なく、決死なく、世に在ては、俗論流行し、浮華淫逸し、人心萎靡し、財政大敗す。

夫れ、人は頭べを天に朝し、足を土中に沒す。其の肉腐れべく、其の心無形無臭なり。渠を一概に神聖の如く見做すは、之を無下に悪鬼の如く見做すと、同日の誤謬なり。混沌たる疑題、天下、人間の如く曖昧なるものはあらず。唯だ之を打てば、鏘然として響あり、其の韻時として金聲を發す。人間本來、罪なく、墮落なきものにあらず、但だ之をして或る方向に向つて進ましめ、或る狀態に於て化動せしむる時、則はち善なり。古人此の方向に名けて「道」と言ひ、此の狀態に名けて「德」と言ふ。此の道に據つて進み、此の德に依つて立つ時、人初めて神の子なり、人初めて靈長なり。此に於てか、理想高大に、感激熾烈なり。人天の間だ、接觸し、龍、雲に躍る、人間の事、初めて觀るに足るものあり。

天地もし「花」なかつせば如何に。荒涼殺伐、顧み念ふに堪えず。人間、靈氣なく、活火なく、献激なくんば、唯是れ泥の子、土偶の如し、唯是れ肉塊、禽獣に似たり。

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

哲人の專講究學して理を探り玄を究むる時、頭腦算數の働くのみと言ふ乎　何ぞ必らず然らん、之を思ひ之を念ひ、惟ふて而して通ずるとき、單に感激のみ。理學上冷々たる發見より、哲學上深遠なる組織に至る迄、其の知らざるもの知られ、疑はれたるもの覺られ、成らざりしもの成れるの一刹那は、靈火上に燃え、心血應じて湧き、感激して忽焉として得たるもの也、斷じて、朽ち果つべき肉と、土くさき骨との間より出現したるものにあらざる也。

英雄の風雲に際會し、赤手を揮つて一代を振盪する所以のもの、亦是れ豪傑自から策爲ずるものにあらざる也。彼、理想あり、一世の汚風に染みず、彼、熱血あり、天下の悲哀に默せず、忽まち感激する所あつて身を躍らせて起つ。此の時、彼は天地正大の氣の激する所ろなり。非凡の剛膽あり、不可思議の天助ある、豈に奇しむに足らんや。

夫れ、哲學者、科學者、及び英雄に至る迄で人中就中自力の強剛なるもの。其の所爲、大率ね自力によつて施こすが如く見ゆるものにして、實は悉く他力の激する所によつて初めて爲すあると斯の如し。其他、皆な推察すべし。

然りと雖ども、果報の寢て待つべき如く、天の感激を力むるとなくして只だ安價に得らるべきものと思ふ莫れ　感激を得るは、無心無意識なりと雖ども、之を得る所以の者は、多年長日月の修養と苦心とに淵源す。雲破れて一夜月映ずるは、水なり而して水の能く清めるに由る。豈に素養なきもの丶天の感激を受るに堪んや。

且つ夫れ、感激せるものと雖ども、空手空物によつて活動するにはあらず。感激は、天の火なれども、燃料は人之を供す煮るべく、食ふべき物品は、人之を料理せざる可らず。感激は、氣なり、生命なり、たゞ加へて以て靈動せしめべく、動かして以て活潑せしむべき元氣に過ぎざる也。故に、其車と、其の荷物と、其の人夫と、其の辨當と、凡そ一切のもの總べて準備せざる可らず。苟くも僥倖を他に求め、無用意に怠慢し、勉強なくして果報を空望するを許さず。凡そ、人事の盡すべきもの總べて盡し、而して後ち天の命を待つ所以のもの、即はち感激を待つの謙德なり。

故に、如斯き謙德によつて感激を希ふ所ろの士は、常に天を仰ひで崇拜す。理想、胸中に凝結する所以の源頭なり。望む

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

所あれば、必らず理想あり、仰ぐ所あれば、必らず理想あり、待つ所あれば、必らず理想あり、人其の現在の地より上らんとすれば必らず理想あり。如此く理想ある所以のもの、即はち感激を受くるの根柢なり。

此の故に、健強なる理想ありて、高遠なる感激を待つ所ろのものは、生平苦學修養して怠たることなし、準備經綸して忽諸にすることなし、極めて冷靜にして容易に狂ふことなし、亦何んぞ狂奔して一代の流行を追はんや。左れば、イチコ、狐つきの如く、無學にして只だ乘うつるものを待ち、學究、迂儒の如く、頑冥にして徒らに高遠を談ずる類ひは、吾人の玆に揚言するものにあらず。

惟ふに、當今の才子、其の學太はだ精やかに、其の藝極めて巧みに、其の苦慮する所ろ中々に心切なりと雖ども、惜しむべし好漢一事を欠く。即はち心智靈覺に工夫する所ろ無きを以ての故に遂に靈活の飛躍なき也。大凡そ今の如き時勢、一代末路に瀕するに際しては、豈に煩瑣の術策と、細巧なる經綸との能く救ふ所ろならんや。大勢を一轉し、革變の機を動かすもの、唯だ靈活の斷を求む。

而して、偶たま靈活を養ふの士、多くは空疎漠然たり。誰か能く財政を知れる、誰か能く政機を知れる、誰か能く實業を知れる、誰か能く愚夫愚婦の安んずる所ろ、情夫情人の死する所ろ、山林の茂る所以、水産の涸る所以、米麥、茶、生糸、漆器、陶器及び美術骨董品の多寡盛衰する所以に向つて潛心するぞ。靈を知るもの、物質を知らず。致知格物の聖道を守る所以、豈に斯の如くなる可けんや。

嗚呼、一代の大弊、火を睹るよりも明けし。慨然として救拯の任に當るもの、須からく此の所ろに着手すべし。奮然として大に養なはんとするもの、須からく此の邊に苦慮すべし。烽火何處に上る、杜鵑何處に泣く、農夫何の日に鋤を投ずる、田舍紳士、何れの日に劍を拔く。吾人は此の眼識を以て、四方に佇望し、亦窃かに同士相ひ戒しむると云爾。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

意氣契合、崇仰禮拜

理想なく感激なき代の常として、人々互ひに疑がひ、何事をも卑しきとに言ひ做して容易すく善行美談を信用せず、聖賢の話を讀みては遠き古しえの事とあきらめ、先輩老哲の言ふとを聞きては時勢の替はりを知らぬものと笑ひ、義を守つて苦心するは馬鹿の骨頂にて、世に隨がつて俗に同ずるが利巧者と囃すと、今更驚ろくにも足らぬとなり。此の驚ろくにも足らぬとに驚ろきて世が初めて廢れたる樣に喪心失望するは、氣弱き厭世家の常なるが、左りとて古來いつも在るとと言做し、冷然棄てて顧みざるものも亦た頼母からず。大凡そかゝる時代には、人互いに疑がふの心甚しく、此の一點には余程過敏となり居るもの故、其の神經を以て人相ひ窺がふ時は、所詮他を信ずるとの出來ぬものなり。何んとなれば、新らしき疊も打てば塵を出すべし、まして人間と云ふ雜りもの丶多き動物なるに於てをや。夫れ、人互ひに疑がつて全心を交換すると無き故、意氣契合と云ふとなく、隨がつて所云ゆる同志の團體と云ふものなし。同志の團體なくんば、人三々五々にして億兆皆な億兆の心なれば、才子ありとも才のまゝにて用を爲さず、義人ありとも義のまゝにて空しく憤死するに止まる、國家の不經濟之より甚だしきとなし。今や、慷慨するもの、慷慨家と相接し、國家の爲に泣くもの、愛國家と相ひ隣すれども、左らば互ひに團結し、一死を同にして邦家の爲に盡すやと問はゝ、双方にさま〲の不平あり、彼は斯なれども亦云々の缺點ありなど論じて遂に相許すとなし、況んや其の意氣肝胆に於てをや。事態斯の如くなれば、涙ありとも、一草の露の如く、絶叫せりとも、一木の風に過ぎず、相ひ合せざれば物の用には立たざる也。左らば如何にして此の弊を救ふやと尋ねて、茲にさま〲の立案あり、或ひは政黨も出來、或ひは倶樂部も出來、或ひは談笑交際往來して他日の用に供すなど言ふ者もあれども、吾人の觀る所によれば一切無益にして、迚も時弊を救ふに足らず。其の所云ゆる救濟の手段一つ成立つ時は、此の成立ちたる手段の爲に又々誤解、疑惑、競爭、衝突などを生じて際限ある可らず、幾度も〱同じとを繰返して所詮は失望の外なく、甞ては斯るとに盡力せし族も遂に匙を投げ、万事休むと稱して坊主になり

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

たしなど弱音を吐くに至るもの也。必竟は救濟の道を誤まりたるものにて、元來誤診の結果なれば、醫藥効を奏せざる勿論の事也。

果して然らば何等の救ひかあると問はれんに、吾人は祈りの外なし、崇めの外なし、禮拜の外なしとのみ答えんとす。茲に斯く言ふ時は、釋儒神道基督もしくは其他何等の宗教に就てと、限りたる謂にあらざるは勿論なり。たとひ限りて此等の宗教の其一を指ざして言ふとも、茲に要とするは、其の名にあらず、其式にあらず、其の信仰箇條にあらざる故、世の所云ゆる宗教家なりとも、其の信仰たる名の故によつては何の効力もあらざる也。

蓋し、人々互ひに疑がひ、批評眼鋭どくして、意氣契合なき時節に於ても、其の信じて崇仰禮拜する所ろのもの尙ほ存する時は、之に歸依して殊勝なるヲガミの心を發せし時や、眞とに人は天の子たり。其の同に跪まづきてヲガム時や、其同信の士に對しては、兄弟姉妹の感動を起す。吾が非を覺り吾が足らざるとを知ると同に、他に對して寛容忍耐の思ひを起し、祈禱禮拜の信念高潮に至ると同もに、意氣肝胆を相許し、人相ひ信ずるの微光を兆し來る。例へば仲絶えたる同胞を恢復する唯一の日は亡き親の命日にて、もし打連れて共に墓詣りを爲さんには、心情直ちに融化の緒を開くに至らん。信を同ふするものが、其の信を熱すると同もに相許すに至る心理の秘密は之れ也。

故に今の如き時勢となりては、奸雄巧みに英傑の心を綜攬し一時風雲を捲き起して、花火の如き演奏を爲すの一手段は別とし、眞に人天の必要に應ずる誠實の改革を起し、刀を天義人道の基礎に立てゝ万世に恥ぢざる聖なる事業を成さんとには、死を同もにし、生を一つにする活ける團結なくんばある可らずして、而して此の團結は唯だ崇仰禮拜の中心によつて結成せらるゝものと知るべし。此の中心に向つて理想するときは即はち信仰なり、此の中心より靈化するときは即はち感激なり。此の信仰と此の靈化なくして、人々如何んぞ契合するとを得ん、契合せずして人々如何んぞ團結するとを得ん、團結せざる三々五々の人遂に天下の大事を成すに堪ゆべけんや。

故に、吾人が今ま宗教界に對して望む所ろ甚だ切にして、人

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

の宗教的信仰に對して求むる所ろ極めて切なり。豈に何んぞ區々たる信徒の增減を言はんや、實に活ける信仰、活ける祈禱の大に燃えなんとを唯一の熱願となす。

星亨論

一代の注目、星亨に向つて集まる。牧亞彌夫も、伊藤博文、大隈重信の名を聞かざるものなしと雖ども、之を聞くと同じに勘定濟、決濟ズミの感慨あり。多くの未來、幾多の疑問ありとも思はぬなるべし。獨り、星亨何ものぞや、其の信徒をして掛念せしめ、其敵をして疑がはしめ、一種異樣の「或る物」を留存して、人をして切りに口の端に上らしむ。もし今の運動世界に星亨なく、今の輿論公議に星亨なる名なからしめば、世は如何に寂寞たるか。星亨亦た人傑なり。

之を攻擊するもの、公盜の巨魁となす。吾人未だ俄らかに其事實を聞かずと雖ども、若し果して眞に此事ありとするも、星亨たるもの、其私慾の故に敢て此の事ありと思惟する能はず。もし假りに自から辯護せしめば、或ひは戰國の習はしとし、もしくは文明の辯護事務とせんか。たとひ其辯に詭辯あり、其論に曲論ありと爲すも、遂に尙ほ星亨を以て姦なりとする能はざる直覺を人心に湧起せしむる、何の故ぞ。或ひは以て鼠小僧に比す。到底賊なるべくも、一種の義賊たらん、妙に快感を與ふるもの只だ此に由ると言はんに、其の堂々天下に橫行し、晝歩いて隱れず、盛んに四方に經綸して、着々事業を擧る所以のもの、別に主張なくんばある可らず。鼠小僧生存の世や、之に有難がりしものは、只だ其の恩惠によりしもの耳。天下之を偉なりとせず。星亨なるものには、確かに偉大なる一分子あり。

惡名を辭せずして責任を負ふは、今人の爲ざる所ろ也。剛膽にして不羈なるは、今人の缺く所ろ也。大望あり氣にして能く隱忍するは、今人の堪えざる所ろ也。斷行して技倆あり、健勇にして而も學べるは、今人に少なき所ろ也。爲に生命を棄てんとする多少の年少を集め、能く駕御統率するは、今人の見ざる所ろ也。たとひ今の元勳と稱するもの丶、幾分此等の長所を分け存するものありとも、既に陳既に老、もと年功によつて如斯くにも思はれて別段珍とするに足らざる如くなるに、而も嶄新にして若々しく、青氣ありて疑問を存し、

尤とも面白くして前途多き如き、一種の快感を添えて則はち以て天下の注目を引く。星亨たるもの、能く此等の要素を具備し、大ひに人眼を聳だてしむ。

然りと雖ども、確かに星亨の欠く所ろのもの、其のヲガム所ろのもの無きと是れ也。もし之を以て彼に問はゞ、或ひは笑はん。而して、眞士の實に遺憾とする所ろ、此にあるを知らざるならん。凡そ傑士は皆な自負する所あり、他の難に赴むきて助け、其の知遇に謝して報ゆるとはありとも、豈に容易すく膝を屈せんや。膝を屈するは則はち同もに崇仰する所ろありて也。凡そヲガム所ろなき人傑は遂に眞雄の意氣を得ること能はず。

夫れ、英雄は、天命を寅畏す。仰ひで天道に禮拜せざるもの、安くんぞ邦家第一流の士の志を綜攬するとを得んや。或ひは鷄鳴狗盜の輩、或ひは血氣年少の族、或ひは幾多の雜兵は得べくとも、遂に一將は得がたし。

嗚呼、一代昏睡して、傑士を聞かざるや久し。民心倦んで切りに變化を希がふ。正さに是れ奸雄蹶起の秋なり。奸雄蹶起し、一方の將と相ひ戰かふ、擾亂斯の如くして而して後ち大雄起る。今は夫れ亂の初め歟。深く、星亨の爲に惜しむべきものあり、其の將を得ざると是れ也、其の崇仰心なきと是れ也、其の謹愼なきと是れ也。孔明出師の表に曰く、先帝、臣が謹愼なるを以て用ゆと。星亨豈に顧みざるべけんや。嗚呼、宗教なきものは、クロムエルたる能はざる也。

凡そ、公人の特色は、自然に感應す。況んや、星亨の如く虚飾せざるものに於てをや。玆に吾人が揚言する所のものは、確かに萬人の皆な感應して、其の將に言はんとする所にあらざる乎。故に吾人は、此の感應を事實として言へり。

但だ夫れ收賄公盜の一事に至ては、嚴然たる裁判と、明白なる穿究とを要す。一代の疑問星亨の如きをして、斯の如き公德の責任に向つて曖昧ならしむるは、天下を昏くする所以なり。而して、たとひ之に幾多の長所ありとも、其の長所の故に此の欠德を寛假するは、天下を腐らす所以なり。星亨確かに傑物にして、感化洪大なるが故に、刻下の疑問に向つて明白なる裁決を下すは、單に公德の爲に必要なるのみならず、亦星亨の爲に必要なり。

竹の園生の風

日本倶樂部に於ける伊藤侯大隈伯等の談話

去る二日華族會館に催ふされたる日本倶樂部の集會にて、伊藤侯爵の夢物語あり。如何にも巧妙にて、場所柄、時を得たる演説なり。大隈伯之に次ひでの談話も亦た愉快にて、突作の應接、例の豪才によつて氣焔高かりしが如し。而して新聞紙の傳ふる所によりて、天下皆な讀み、皆な快感を受く熱砂清泉に遭へる心地して、益もなき政爭を聞くヿに倦みたる人心や、滿足せり。

凡そ斯の如き集會は極めて益あるものにて、政治社會の衝突を避くるヿ甚はだ多きのみならず、其の爭そひをして君子風ならしむるに有効なるもの也。大抵、衝突は感情の齟齬より來るものにて、其の齟齬は、面を合せて相見ざるより來る。人相見て、互ひに眸子を眺むるときは、惡人は少なきものにて、且つ直ちに言葉を交ゆるときは、眞意流露して誤解曲察あるヿなし。又もし止むを得ず相爭そふに至るとも、交際あり應接ある間は、其辭自づから慇懃にして、互ひに愼しみ必らずや公平を期して自然に君子となるもの也、歐米に於ける政爭の野蠻ならざるは必竟、夜會宴席等の催しありて、敵者互ひに顏を合はす事多きが故也。

日本倶樂部に於ける今回の一席は、此の實用を證するに餘りありき。但だ怨むべきは、談話尚ほ露骨にして遂に政談を離れず、卓上の語氣やゝともすれば殺風景にて、紳士の雅量に對し如何がはしく思はれたる節のなきにあらず。是れ一つには、尚ほ場慣れざるの致す所ろ、二つには、斯る集會の禮節の未だ定まらざるヿに由るヿにて、是れ何人も直ちに合點すべき原因なるが、惟ふに更に二つの別因はありしならん。曰く、其の主人公の高貴ならざりしヿ。曰く、之に婦人の陪席することなかりしヿ、是れ也。

此際、吾人は豫ねてより希望せし一事を告ぐ。そは恐れ多き申條の樣にてはあれど、竹の園生の高貴なる御方々は、今や諸種の會合に惣裁せらるゝ御盡力を一層に惠與せられ、其の諸種の會に於て、もしくは別に御邸内の催しによりて、適宜好機の折節、倶樂部樣の宴會を開かせられ、可成く政爭上の敵者双方を招がせられて、一夜の清會を催ほさる可き御趣構

のあらんこと是れ也。而して、殿下御兩人の御催しなれば、參るものゝ夫妻同伴して參向せんこと勿論なり。

蓋し、高貴の御方々は、大抵外國にて文明の風化を學ばせられたれば、斯る御催に慣れ玉ふこと、世の常ならず。惟ふに其の御心を勞すること決して多からざることは推せらる。

幸はひにして、此の事行はれ、政爭の尤とも激しからんとする時、もしくは天下見て激しげに感ずる其時、兩雄及び兩派の領袖、高貴の一席に陪し、清座風流を談じて曾て政事を論ぜず、同もに仰ぐべき御方を中心にして、其周圍に同もに歡笑和樂せば、自然に融合する所ろ、自然に感激する所、如何計りぞや。是れ實に邦家の大幸にして、憲政美妙の根本なるべし。

因みに言はく、西鄕德大寺の二侯は、宮中府中に於ける二個の偉人なり。其の德望優に衆心を和し、其の信用確かに一般に徹せり。二侯にして若し此般の御趣構に助力せられ、到る處ろの此の會に陪して、挿花清風の興を添え玉らんには、和樂の妙如何計りぞ。破裂後の調和は抑そも末なり、之を未然に防ぐものは、夫たゞ二侯を力にしたる宴席なる歟。

女學

婦人の修養に就て（下）

青柳有美

（第五）獨立の用意あるべき事　女子は元來男子に依賴して生活すべき性質のものである。その獨立生活を爲るのは、一時の變であつて一種の權道に過ぎないのだ。さればとて、些かも獨立生活の用意をして置かぬといふことは、非常な愚であつて不行屆極まることである。これまで、日本の婦人といふものは、すべて男子に依れる依賴生活の常道に處すべきことをのみ考えて居つて、獨立生活を營なまねばならぬ變に應ずる道を講じて居ない。一切世間常住なく、何時なんどき男子に手賴ることの出來ない樣な運命と境遇とに出遇ひ、獨立の生活を致して、單獨か或は子孫と共に其日を送らねばならぬ樣になり、これを養育して行く責任を負はねばならぬことになるかも知れぬ。其時に當りて、豫ねてからの用意がないと、大變にマゴツキ出して醜い樣をなし天下に恥を曝す樣な

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

仕末となる。故に、不斷若い結婚前の時節から、かゝる非運に沈み夫と離れて便り少なくなつた場合或は結婚せずして一生獨身で暮さねばならぬ樣な事情に接した場合にも、ドシドシ人の補けを仰がないで、生活が出來るだけの手藝その他の職業を仕込んで置く必用がある。是れは、甚だ徒勞の如くにして實は徒勞でない。凡て變に處するの道は誰でも講じて置かねばならぬことなのだ。

戰爭といふものは一般常道ではない、たゞ一時の變に備えるための權道である。然し國家は斯の變に處するために一百年に一度か二度しかない戰爭のために、年々歲入の大部分を費やして、軍備を力めて居るではないか。女子が獨立生活を講まねばならぬといふことは、國家が戰爭をせねばならぬ時と同じく、甚だ稀にある運命で素より「變」なのだ。然しこの「變」のために國家が無駄ながら日常軍備を計つてる如くに、女子は獨立生活の仕度と心掛とを持て居らねばならぬ。戰爭は滅多に無いものだからとて、軍備を怠つてる國は、どうしても外國の侮りを受けて、思ふ通りな行動を恣まにし、その權利を擴張して行くことが出來ないではないか。女子も矢

張り同じことで獨立生活の出來る職業か財產でもあつて、根底に强固な强いところがないと、飛んでもない詰まらぬ男を狼狽えて夫に持たねばならぬ樣な仕義になつたり何にかして天賦の人權を思ふまゝに揮り動かして行くことが出來なくなり、男どもの輕蔑を受くることになる。これは己れに弱いところがあるためだ。今時の女學生あがりの細君などで、一から十まで夫に世話をかけて、若し夫が行屆かないところでもあると、サモ／＼夫が働きでもない樣に馬鹿に高く止つて我儘勝手をいつて居りながら、女權擴張などゝは甚だ氣の知れぬことで、空の鳥が聞いたら定めし笑ふだらふと思ふ。かくの如くであつて種々の手藝と其他の職業とを覺えて居るとは、唯に獨立生活に大切なるものなるのみならず、又夫たるものが不幸にして充分能力を有して居らぬものであつたり、一家が衰退の場合に傾いたりした時に、これを補助してゆくことなども出來て甚だ好都合のものだ。故に、今日私が御勸め致したい第五箇條は「獨立の用意あるべき事」であるのだ。

（結論）**早婚すべからざる事**　以上既に五ヶ條に別けて申上げたところを、一言に約めあげていへば、先程深味先生から

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

も暮々御話のあつた通り、早婚すべからずといふことに歸着するのだ。前申した如き色々の修養鍛錬といふものは兎ても今の樣に算へ年の十五位で婚禮して、それで到底得られるものでない。どうしても結婚の時期を餘程遲れらかして、充分種々なる修養を受くることの出來る樣な「時」といふものを女子に與えることにせねばならぬ。十五十六十七位の東西も別らぬ樣なお孃ッちやんが婚禮して、それで男を助け子を育てゝゆくことが、どうして出來るものか。生理學によれば、月花の初綻から滿十ヶ年後になると女子の生殖機能は完全無欠の域に達するものだそうである。然し、滿二十歳にもなれば結婚しても大低は差支がないとのことだ。若し如何にもして早婚せねばならぬとの事情があらば、滿十七歳即ち算え歳の十九ぐらいまでは、どうかこうか無理ながら間に合ふといふことである。これよりも齢が不足で、假令ば算え年の十五か十六で結婚するのは全然害惡なるもので人種を虚弱にして非常の災毒を來たらすのだ。即ち生むところ、早くは產を苦んで難產をするし、生るゝところの小供は傷ついて出たり、或は發育未全のものになつたり、その他かくの如き早婚なるものに生理的損害の多いことは、深味先生よりも懇々御話しの通りであるが、これと共に精神的弊害も實に少々ばかりでなく、女子修養の時機を全く無にさせてしまつて、結婚後それがため家內の不和を生じたり、或は變に過ふて子孫と共に路頭に迷はねばならぬ樣なことになつたりする。これはたゞに其女子一代の不幸なるのみならず、子々孫々三四代までの不幸である。否な日本人種全躰の不幸である。故に、算えどしの十五で婚禮する樣な早婚の弊は、全く之を矯めてしまつて成るべく晩く結婚する樣――いくら早くとも算え年の十九以上で婚禮する樣に致して頂きたいものだ。

終に臨んで、私は諸君が、私の如き薄德非才弱年な者の話を、も長く靜聽の榮を與えられたるを心より拜謝する。尚又秋田婦人學會が過去十有餘年の長日月の間、榮枯盛衰を物の數とも思はず、誠意熱實女子敎育の爲に盡瘁せられたるは甚た偉とすべきことで、私共の甚だ感歎して措能ざる所だ。私は願くは今後益々此學會が發達進步して、秋田縣に於ける女子敎育の爲に力を落され、其生命となり光となられんことを切に望むものだ。私は再び茲に秋田婦人學會の光榮と萬歲とを祝する（了）

瀧頭餘感

或問（二）

新井 達

或人問て云く、子は常に平和を說く、而に頃日子の言に、若し已むを得ずんば大に戰ふと云ふ、其主義貫徹せざる者有に似たり、如何と、余答て曰く、我師は軍人なり、吾焉ぞ敢て戰はざらん、曰く、所謂子の師は誰たる、曰く、惟一の師にして宇宙の子弟の爲に常に戰て勝つ人也、當今の時罪悪日に進む、吾れ平和を以て主と爲すと雖も亦焉んぞ得て戰はざらんや、其戰ふ所以のもの乃ち其平和を致す所以也、是れ我か師の道也、今其方法如何を問はゞ、天下の罪悪必ず終らざるべからざる也、暴虐と云ひ、殺害と云ひ、掠奪と云ひ、密計と云ひ、詐僞と云ひ、收賄と云ひ、乃至百姦千悪、中となく、外となく殆んど極らざる所なし、是れ[illegible]を以て正に歸せしむべからじ、方便を以て善に遷らしむべからじ、教育を以て道に進ましむる能はじ、政略を以て和に至らしむる能はず、一に唯戰て之に勝つあるのみ、是れ愛矜なる人、平和の主に於て決定せる所也、苟も眞に平和に勤むる者は此に於て盡心竭力せざるべからず、當今の時は柔順を以て道とするの日に非るなり、便佞を信ずる勿れ、利口の邦家を覆がへすもの滔々皆然り、陰德を以て美と爲す勿れ、君子者流の世に爲す無き、古より多し、其君子者たらん自りは寧ろ道に於て軍人の徒と爲れ、軍人は眞人也、

曰く、願くは其詳なるを聞んと、曰く、予嘗て其道を言へり、暫らくして子に告けん、嘗て一「文明」國の商人あり予に語て曰く、子此の「文明」國の人を以て正直なる者と爲すか、予か店は人を閱する亦多し、商工紳士至る、然に數金を以て委ぬべき者寡し、其以て委ぬべき者百人中一を得れば斯可なりと、夫れ人の此世に在る、一般此の如し、若し彼が邊幅を拜して而して之に倣はゞ則ち我れ過てり、今ま取て其新聞紙を見れば、迫害醜行盜賊暴亂、市都より村落に至まて陸續として日に生じ、官之を制する能はざるか如し、然と雖も是れ奇とすべきに似て奇なるに非るなり、此人にして此世に生れ、此事に慣て此國に住む、此の如くならずして將た又何をか待

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

たん、ゆゑに人にして變化せずんば國終に治まるを得ず、夫れ國の本は常に人に在る也。

曰く、然らば則ち人如何にして變ずるを得る、曰く、亦感化の道に外ならず、然れ共是れ普通解する所の感化の如きに非る也、眞の感化は神力の功、至誠に由り、人道に因緣して而して后ち成る者也、我儕もし誠を立てて衆と相ひ愛し相ひ勸めて而して相ひ養ふに非れは、到底人心人質人行の善道に變化する能はざる也、予は無望者に非ず、之と反して有望なる者、然に人の聽く無き、其自ら智として天の榮光を誣ひ侮るもの、時有るか、殆んと吾をして望を失はしむるに至る、若し之を哀んて益あらば、吾痛く哀しまん、然に徒哀は以て毫も益を爲すべきに非る也、

曰く、請ふ其道を聞ん、曰く、眞の救世の道は、宇宙平寧の道なり、徒然たる社會主義に非じ、翻然たる宗敎主義にあらざる也、救世者に在ては至惡の魔と雖とも必す之を救はざるべからず、極罪の人と雖ども終に之を贖はざるべからず、其方法と其理由との如きは、我等の心胸に解了し得べきや否やに拘はらじ、我か救世主に在ては、何物と雖ども終に之を

救贖を得ざるの地に放棄せず、必す皆救はる、是れ乃ち其救世者たる所以なり、彼れ善者を救ふと齊しく、世の惡者をも救はる、彼れ必ず總生物を救ふて一も遺さざるなり、故に所謂善者も必す我主救世の道に由て救はるべし、然らずんば、彼等は神自り、然り、救世者より降臨する所の新生命を得ざるに因て死す、業成らずして斃る、盖し再生更新以て繼續して永遠に至る能はざればなり、此の如くに、又極惡の者と雖ども亦必ず終に救はる、然らずんば救世者は救世者にあらず其實なければ則ち其名を成さず、主耶蘇基督は救世者たり、彼れ至大より至小に至まて、善より惡に至るまで、凡そ生氣ある者、一個の缺漏なく皆之を救はれざるとなければなり、彼れ惟一の道なる同愛同情同業同信同望同律を以て公共に之を救はる、而して其同や、常に万異を包括す、人の之を信ずると信ぜざると、之に向ふと向はざるとは、此間に於ては竟に關せず、彼れ神と完一なる權能を以て之を遂く、而して其之を遂くる所以の者は彼れ絕對の神力至誠に由て億万の罪惡と戰て之に勝を以て也、基督は即ち神也、而して神は、万有を全ふせる權能の眞人也、神の旨は基督の體に由らずんば、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

之を世に行なはず、
今日の世は多端の世なり、然に此多端の務を以て何等の事業を神の爲めに遂げしや、嗚呼、爾ち今の所謂「文明」よ、爾ちは此世の自造物たり、而して私意私欲を以て前後左右上下幽明に神の所動と相戰ふ、請ふ聽け、吾れ爾に告ぐ、爾の勢力將に速に竭きて死せんとす、爾ち不遠に神の榮勝に呑まるべし、其他の人よ、今の文明に染まざる者、忠誠不欲にして救濟の眞道に從ふ者、爾等須らく神體之中心惟一眞人の位する所を覺知信認して悟得すべし、宜く大道の本源に感應すべし、救世の尊父尊母を思念すべし、彼れ死に由て万世を救はる、則ち死に由て之を救はると雖ども、其生時、始より終に至るまて、靈形に通じて迫害非難に遇はれざりしは無し、其十字架の苦みは實に其平生にありしき、而して今と雖も亦未た全く其苦難を我儕人體の中に免れず、大戰の又大戰、戰に非るは無し、敗るゝと雖も必す又興り、斃ると雖も必す又生く、竟に終に死すべからず、必す絶對榮勝を得て而る後ち止む者也、宜く感謝慕倣すべし、吾友よ、之を知れ、本源至上の動用は平和寧靜なる神息なり、外物の勢、假令剛强なるも之、敵すると能はず、假令敵するも、能く堪ゆるとなし、神息の平寧は滿圓堅確、誠に開進造化の基礎たり、宇宙の過激なる者を擧ても、之に波濤を生する能はず、是故に神の滿圓充實を謂て大終と云ふ、其完全至らざる所なく、一物も進んて之に越え先たつと能はざるを以て也、是故に大生の眞靈、即ち至尊の神の完全を保護繼續せしむる所以の者を謂て大始と云ふ、蓋し惟一本源にして大終と相貫き常々還施息むとなきを以てなり、是れ乃ち常經也眞實也、今ま夫れ一救世者の全心全腦全性全體を以て人格を完備して惟一本源より出て來り而して大始に復歸して貫て大終と成る者は、純然たる天法に由れる、神の自動律也、たゞ人智の微弱にして其所以を徹知する能はざるを以て或は之を呼で神の機密と云ふ、ゆゑに道に於て凝聚する軍は其勢ひ天の如く、其氣は日の如し、離散の者は百万と雖も微弱なり、天軍なる者有り、正氣凛々、毅然として峙つ如く、之を視ても(我儕には)見えじ、之を聽ても聞へず、然り而して精靈凝聚、運進機轉、以て千邪万魔を旗下に伏して善克する者也、義軍なる者あり、必ずしも戰はず、戰へば則必す全世界平和の爲にして戰ふ者也、

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

百戰百勝を以て善と爲す者に非ず、其勝を制する必しも戰を用ひず、茲に必す時期の至る有り、此二軍の者相合するの日なり此に及べは則能く天下の困者をして安んぜしめ、囚者をして自由ならしめ、而して愛憐を以て民を撫育し、義和を以て之を教導す、嗚呼、大なる哉軍や、誠に神の偕にせる者に非る自りは其孰れか能く茲に與からんや、夫れ兩軍は一にあらず、而して其眞道に從て開化を扶け、終に天地をして合同せしむる所以の者は則ち一也。

客曰く、余未た其要領を得ずと雖も、亦深く子か言の實なるを感ず、偶々問ふ子頃日「文明の野蠻」と題せる者を見しや、答て曰く、然り、思ふに此れ今日缺べからざる有用の書文たり、其報知の詳なるに拘はらじ、議論確實、精神凜然、其「文明」國宣教師に告て卿等の本國は卿等の盡力を要すると東邦よりも甚し、故に其本國に於て平和の眞福音を傳へよとは、實に然り、夫れ何故に眞道未た大に世に顯かならずして却て眇々然として嗜慾の界に凝滯し、講說の上に寸斷せらるると尋ぬれば、則ち其然る所以のもの彼の僞善豺狼自ら文明と稱する者の斯道を逆用して人間を蹂躪傷賊するか故也、而して其傳道師の無責任、非責任、の罪多きに居る、耶蘇にして今此に來らば、將に何を以て我等を處せんとする、噫禍なる哉「文明」や、彼若し蒙昧ならば却て福ひならん、其書末に吾か政府宜く英米と共に彼の暴行虐殺の事實を調査して適當の處分を行ふを勸むべしと云ふは、是れ國人其心を存せる者一時の感情にして、當局役人の一日も以て等閑に付する能はざる所なるべし、苟も精神ある、時暇無きにあらず、而して噫、今迻巡、過日余又内村氏の「我が學びし所の政事書」を讀めり、我に先つて吾見を筆せし者と謂ふべし、敬服、余が心今ま此二文を記す。

川井運吉君の吾黨日刊新聞のため洋行せらるゝを送る

紫苑

櫻はなさくを待つ間の朝な夕な
　こゝろにかゝるあめりかの空

咲き出てん花の色香は知らねとも
　たゝ春風にまかせてしかな

　折にふれたる

徒らに知慧の木の果をつみしより
　もの思ふ身とは成にけるかな

藻鹽草

想餘集（其三）

善竈の子　竹美

▲獨創警拔の思想は、多く反動の賜物なり。反動せぬとは、前代の思想を、そのまゝに繼承せりとのことなり。故に、平凡なり尋常なり。目慣れたることなり。

▲スポルチヨンは、山師と囃されたる時もありき。

▲文學者將た詩人などいふ輩の好みて關るは、概ね婀娜姿の女にて、俗に妖婦とぞ稱ばるゝ不評判ものなる。

▲僞善、これも亦結構なり。今の所謂僞善を排するとは、是れ野蠻主義に還れとのことならずや。

▲美術家は母の如く、その製作に胸みの苦みをなせども、鑑照家は父の如く、たゞこれを是非論評するのみ。

▲プレトーは一極に秀でたり。アリストートルも又一極に進みたり。されどソクラテスは兩極を包藏せり。これ兩者に及ぶ能はずして、しかも兩者に卓越せる所因ならんか。

▲人は、主觀より客觀に入り、また主觀に還らざるべからず。

▲露國の皇室が、今や虛無黨の禍に慮りて恐懼おばしも安んずる能はず、兢々として弑逆たゞこれ怖るゝ所因のものは、ピートル大帝カザリン女皇以下先代の諸ツアール、暴戾自ら悦び、ポーランドを分割し、或は無辜の良民を責め傷むるなど、傍若無人の行ひありしより、この血の祟り、かくは子孫の頭に酬ひ返えされたるなり。

▲人間の最も愛する所は『我れ』なり。われと好みを同ふし氣質を同ふする人を愛し慕ふて、これを友とし戀人とするとは、是れ我れならざる人のうちに、『我れ』在るを看て、之れを愛するに外ならず。故に、友を愛するといふも是れ實は『我れ』を愛するとのことなり。

▲白百合は賞すべし。されど、薔薇は更に又愛すべし。

▲妻なるものは、概ね其夫の孜々として一事に熱中するを悦ばず。況んや妻ならざる女のために熱心盡瘁することをや。佛人パリッシーが釉藥の發明に、日夜寢食を忘れたる時、これを狂氣の沙汰なりとて、切りに邪魔立てせしも其妻なりけり。之を要するに、妻とは夫のものごとに凝るを悅ばざる

人種なり。學術研鑽のために凝るも、其悦ぶところに非ず。詩想に凝るも事業に凝るも友に凝るも、亦悦ぶところに非ず。況んや餘所の女に凝ることをや。朝より夕に至るまで、別にこれといふ用もなく、家の中にのみうづくまりて、妻を對手に横なりながら、くだりもせぬ馬鹿口ハタくか、但しは又火鉢を二人の間に、意味もなき世間ばなしして、アタラ時を消し居らば、恭悦まことに斜ならず、御機嫌この上なからむ。かゝる馬鹿げたる眞似せぬ夫、これを稱して薄情男といふ。兎角今時の女學生上りの女房などには、少しウスノロの傾きあるにあらずば、貞實なる夫と崇め奉られ難しと知るべし。

▲文章の輕妙なると否なとは、その間に挿まるゝところの假名の用ひ方如何にあり。『女學雜誌』の編者の如きは、即ち此の假名を用ふるに巧みなる士といふべきか。

▲人は交換のために生れ出でたるものなり。我が作れる有形無形の富を、他の作れるところと相交換すること、是れ人生なり。故に、人生の意義は交換にあり。社會とは即ちこの交換の目的のために成立せられたる人類の共同團体をいふ。換言すれば一大市場なりとのこゝろなり。されば、學問も賣物なり。正義人道も又賣物なり。

▲人の智慧は其眼より飛び出んとし人の美は其口に懸る。

▲詩とは、醜きものを美はしく鹽梅して、人の玩味に適せしむる術をいふ也。假令へば、鮮血淋漓、口これを味ふに堪えざる獸肉を調理して、膳にのぼすが如し。

▲空氣の乾燥せる時は、不思議にも食事のすゝむものぞ。

▲西洋の女樣がたは、男どもに御愛嬌を撒きちらし給はれども、日本の藝者どもは、男樣がたに愛嬌を獻上し奉るなり。これ前者のロハで頂戴すると、後者の價を拂つて買ひ受くるとの別あるがためか。

▲記者の友桃華曰く、學問とは解ることを解らなく言ッて、平民を煙に捲く術なり。人かゝるものを修得してヒユウマニテヰーの爲に何等の寄與をかなすを得んと。

▲女の手は、不思議なるものにて、その幼きうちは凍傷の時の如くイヤに赤く張り裂けんまでに實り居れど、年進みてこれに老波の寄り來る頃には、却て見榮えよくなるものぞ。

▲人あり、若し社會を逆遇すれば、社會は茲に反抗の氣を高めて、却て其人を害し損ふ。されど、鐵槌を揮つて之を打擊

することを一たびなれば、忽ちにして倒る。女性は、其意氣如何に軒昂なるものと雖ども、しかく決然として社會を其脚下に蹂躪するの威力なし。さればとて、かゝる輩に又これに服從する能はず。社會、是に於てか憮然たり。乃ち女人を驅りて針の山に上らしむ。

▲小機用なるものは畫家たるを得べし。されど、影繪師に至りては、朴質にして氣根なかるべからず。

▲鳥に反哺の孝あり、鳩に三枝の禮あり。人にして孝なくんば、鳥にだも如かんや。鳥に雌雄の自由交際あり。人にして男女の自由交際なくんば、また鳥にだも如かんや。

▲藝者の、藝者として成効するは其拘泥せざるところにあり。されど、藝者の、細君として成効せざるも、又その拘泥せざるところにあり。

▲河村清雄、油繪を塗板或は木目板に畫くの術を工夫す。人以て珍となし、その着眼の面白きに驚けり。されど、歐洲繪畫の初期にして、未だ油繪具を用ふべき法を知らざりしフレスコ畫時代の初めに當りては、同じく板に畫くを常とせり。

▲他の評判を氣にかくるほど愚なること、またと世になけれど、これも自ら省みて己れを正ふするために、天の下し與へし賜物と思へば、また甚有し。

▲他人より貶め難されんとの心掛けあるものは、如何に誤るべき好材料のあればとて、決して口を開くべからず。終始たゞ是れ緘默するをよしとす。吹きたてたる談論に一時の火花を散らさんよりは、却てエラさうに見ゆるものぞ。

▲男女始めて相遇ふて互に取り交す一瞥こそ、この二人が間に組み立てらるべき絲の緒なれ。それより後の往復交際は、これ其上に積みおげらるべき煉瓦石に外ならざらめ。

▲顧客の觀照に慣れざるものは、押繪細工の巧拙を批評し得る眼識なし。

（まだ〱ある）

暗涙

愛花女

天つ使ゆく〱きたり　われなきへ〱ただにく
うきよなかみを悲と　苦の外なさぞかし
たもとにあまる涙なに　秘めて秘めてけふもまた
世の人並に立つ居つ　ホヽと笑ひて過す也
かたとき君とかたらはば　憂き事忘らで月なふると
いふ人々の心にも　ましてかなしき胸の中
せみはこかげになき暮し　ほたるは草にもゆる也
訴る翅なきみには　神のみ顔のゆかしくて

＊　＊　＊　＊　＊　＊

草の葉に宿し結へる露のみの吹風さへにまたれぬるかな

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

義人は咀はる

（宗教家に對する大警告）

朝天行

世には義人聖徒といへる人類の一階級ありて、自ら神の撰民なりと號し、慷慨一世の師表たる義憤を衒ひ、正義公道の聲は波瀾萬丈の趣を添て、涙脆き人の子をおどろかし、人情を唱へ、戀愛を歌ふ處の者は、悉く此世を永遠の刑罰に導く、魔王の兒分なるかの如く心得、冷嘲の礫を雨霰の如く吹飛し來て、社會民心の革新家などと柄になき駄法螺を吹立て、地上に天國を建設せんとは瓢箪から駒でも踊りでそうな話といふべし。彼等は人間を血あり熱あり涙ある優等動物とは心得で、醜骸の如き冷骨のみの動物と思惟する者と見え、屍骨の別名なる、正義と謂ひ本領と謂ふ文字を陳列し、道徳專門の卸屋が得意の花客を求めむとするに似たり。案外今日の社會は見榮を第一とする粹人達の多きとて、この面貌に異なきめじまを塗付て、粹の何物たるを大悟したまひし痴人の如く、道徳卸屋の店先を素通りして主義本領などの看板を盗讀みし、斯る文字を大道狹しと鼻先にぶらつかせて、當世の義人聖徒なるかの如く裝ふ者の多きに至ては、最早沙汰の限といふべきか。それも廿歳前後の青年にありては、縱令悟た氣な顏付をするも、未だお若いときのとなれば、その根據頗ぶる薄弱にして、砂の上に家を建たる愚なる人にも譬つべしと雖ども、三十歳以上の人にして斯の如き者あらむか、彼等は覺束なき信仰上の經驗などいふものを楯とし、浮世の苦心も盛夏の白雨が藥種屋の庭先を裸走りしたる位に、一寸その匂ひだけを咀嚼し、卑劣なる動物的の慾情を滿足せんため、思ふ女子に三四度も振り付けられて、其道の半可通ともなりたる者なれば、斯る種類の義人聖徒達に對してこそ、遍ねく世界を經巡りて一人にても惡魔主義に引入んとする我等と雖も、腕を扼して茫然自失せざるを得ず。斯種の人は淺墓なる社會觀を基礎として、單純なる信仰に立をほこりとする者なれば保羅の所謂己が腹を神としてがみがみ宗の覺束なき福音を尊み、義と和と聖靈の神の國を、屑拾ふ人の子の前に其門を鎖て開かず、社會の悲事を人祖の罪の結果なりと唱へて、根據弱き罪惡論に重を措き、却て現實の涙の谷の人の子に同情を表することを顧みず、自身は高蹈脫越とか稱して人生の側面に

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

常に冷笑を湛へるなど、われら悪魔主義の信者とは、仲々に正反對なる神の國の子供等にして、外の暗きに逐出さるゝまでは、己か淺薄なる智慧の鍵をもて罪人の前に天國の門を鎖る大罪悪を悔改むる能ざるべし。

殊に彼等の根本相に就て我等の怪訝に堪ざる者は、神は愛なりと唆々するにも拘らず、其舌の根も乾かざるに神を義なりと說くにあり。我も一度は神の愛を慈悲と正義の調和に在りと信じたるとありて、亦その如く意氣揚々と說廻りたるとありと雖も、今日にては其正義の觀念に大に變化を現しきたりぬ。一時は正義の意味を以て、風雨怒濤乾坤を動搖せしめて、赫然地上の人畜を屠殺するが如き巨猛の勢力こそ、正義が天地の不義悖德を憤怒して大刑罰を降す所以なりと觀したるは、かの傲僧日蓮が自著安國論に於て、元寇の來襲を以て正法に歸依せざる咒咀なりと云ひ、若し今に於て正法に信賴せざれば、天地は破滅せんと叫びたるが如き有樣に髣髴として、彼の唱る正法は我の所謂正義に似たる者ありき。然れども我は想ふに斯の如きは思想乳臭を脫せざる時代の觀念にして固より論ふにたらず。眞誠の正義は斯る野蠻時代の暴君の如き者にあらずして、愛の深意の中に含有せられざる可らずと。

この一語實に幾千の熟慮の結果として、天より與へられたる賜なり。世に愛憎と云へる熟字あり。此二字には二個の正反對の意味を有す。一は身も世もあらぬほど、慈みの心に滿さるゝと共に、一は身も世もあられぬほど、咀の心に充さるゝの謂なり。これ普通に云ふ處の神の正義仁愛の觀念に必適する者にして、神には正義の公憤に伴ふて憎惡起り、仁愛の大義に基きて無比の寛容現るとぞ。されど我は罪深きか故に其如くは信ずる能す。神の愛と所謂義とをもて、伍格の地位にて相併立せしめんとすることそ、根本的の誤謬ならむとぞ思はるれ。世上幾多の敬神家は、神は渾心これ愛なりと確認するにあらずや。既に神は渾心これ愛なり。何そ正義と稱する別我を有せん。神の中に正義と仁愛を併存せしむるは、宇宙の心なる神の中に二個の大我を認むる者にて、有神的倫理說の基礎は竟に二原說に陷らむとす。これ實に非合理的なる根本相にあらずして何ぞ。一神にして二個の我を有するが如く觀察せんか、殆むと三位一躰說の舊套を逐ふ者にて、更に敬服すべきにあらず、殊に近時の正義の觀念に對する倫理思想

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

は、昔日の舊體を脱却して一新面目を開き、惡を憎みて之を罰すと云ふか如き消極的制裁力にあらずして、惡を厭ふて之を肅ふせしむる積極的開發力なりと識認するに至たれは、神の愛が人類に對して有する處の作用と大徑庭を有せず、神が罪の人を憫みて之を救んとする場合に於て、愛の作用の反射が義人の正義と思はるゝとあらむと雖も、實は愛其者の反射にして愛を離れて別個の正義などは神に於て之を持たざるなり。されば神の罪惡に對する態度を靜思するに、これを憎むにあらで憫み給ふ如く、これを咒ふにあらで厭ひ給ふ如く、これを痛むにあらで淨めむとなし給ふ如く思はる。故に我の神に對する觀念の中には、義人聖徒の有する卑下なる正義の思想を傾注せしむるを欲せず、我は九十九の義人よりも一人の罪ある人、主の愛に感じて救はれなは天の使は喜の歌を奏すと敎へられたる、姦婦を訴へしパリサイ人に對して罪なき者之を打てよと宣給ひて、靜に地上に文字を書かれたる、この耶蘇の中に成就せられたる天父の愛のみを生命限に尊重し、此愛を歌ふの宗敎家たらむとす。歌ふは缺點多き我等が行ふにも優て氣高からむか。

惡魔主義の唱る地獄の聲は、如何に愛の神の前に麗しき音樂を奏するよ。我等は永遠に亡びもやせん。されど之れ骨肉の爲ならむには、亡びに至らむも亦我願なりと高吟せる、無双の熱腸漢保羅の大精神に近からむか。あゝ此世の義人等よ。神は卿等の如き者なりと思ひ給はゝ、卿等が悲み憂ひ齒嚙みする時近きにあらむ。卿等は基督の中に現れたる天の父に從ふ者にはあらで、己か心に寫る己が腸を神とし仕るにあらざるか。然らざれば猶太敎時代のパリサイ思想の中眞勢力たりし萬軍のエホバを認めたるのみにして、未た基督の門に入りたる者にあらざるべし。あゝ此世の義人等よ、卿等は律法を旨とする智者達者の再現にはあらざるか。天父の聖旨が赤兒の心に現はるゝとを感謝し給ふたる耶蘇基督の御心は、己が腸を神とずる智者達者の中に、仲々に領解せらるべき者にあらず。基督が今尚我等に爾の信仰の如く爾に成るべしと宣給ふ如く、二千年前の昔に於ても小亞細亞の全地に響き渡りたる天來の聲にて、當時の猶太國民が人類の罪惡に對する嫉妬の神、萬軍の神、咒の神を信じて、其信仰の如く基督以後百年を出ずして、咒はれ、嫉まれ、軍に破られ、空前絶後

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の悲劇國は最後の終焉を告げたるが如く、今尙ほ卿等がこの荒神を信じて、神の如き正義を全ふする能はざりせば、其信仰に依て呪はれ嫉まれ正義に惓まれて、消えざる火に燒かるゝとを覺悟せんとを要す。あゝ痛むべき終焉なるかな。我等が悪魔主義の福音に耳を傾むけざる、世の義人等よ。

『戀愛文學』の卷頭に書す

後藤宙外

有美、靑柳猛君、その著『戀愛文學』を上梓せんとするに當り、同郷の故を以て余に序を徵せらる。本來他人の序文程、著書に取りて贅疣なるものなし。況んや不肖余が如きもの〻漫語を卷頭に冠するは、却て君が名著を汚すの虞なきにあらず、然も約は背き難し、思ひよれるが儘を書きつられん

余が君の名を知れるは、數年前、早稻田文學社に在りし頃、或雜誌にて、君が論文を一瞥せるを最初となす　其の後、『新著月刊』裸体畫問題の爲に評延を煩はせる時、君は突如余に書を飛ばして美神の爲に眞理を把持し直論笔を屈する勿れとの意を告げ、添ふるに某雜誌所載の君が裸体畫論一篇を以てせらる　當時余は未だ一面の識もなき人にして、如斯厚情を寄せられたるを感謝せりき　爾後、今春君が我が陋居を訪はるゝに到るまでの間は、友人宇津木昭太郞、小田內通敏の二氏に依りて間接に君が消息を聞知せるのみなりき。余は二氏を信ずること深し、故に二氏が言をも疑はず。而して二氏が我を訪ふ每に語られたる有美君の人物談は太畧下の如し。今二氏が言を合せて一人の談話體となす

僕は屢々小石川の教會で、靑柳君に逢ふが、實に眞面目な愉快な熱誠な人物で、

尤も感服するのは、微塵も利己心のない虛飾氣のない一事である。確かに一風變つた狂熱家で、滑稽の趣味も含蓄して居る。其れで、直論讜議少しも假借せぬから、往々人に誤解される、又嫌はれる。が併し、えらい所がある。其二三の例を擧て見やうか。或夜靑柳君は同教會の牧師として、壇上に頭を垂れて、熱誠の淚を揮うて、祈禱をなして居た。これは形容ではない、實際彼の男は物に感ずると、子供のやうに大聲をあげて、おいおい泣く、ぼろぼろ大粒な淚をこぼすのだ。此途端に車夫体の醉漢が蹈り込んで來て、嘲罵の言を絕叫して、祈禱を妨害した。靑柳君は忽然壇を降つて、突進に醉漢の側に到り、彼れの肩に手をかけて、堅く抱き締め、「お前は實に憐れな者だ。サア神樣に對して、私と共に、赦されるやうに、祈禱をしやう、サア祈禱をしやう」と熱心に勸めて、到頭兎も角、頭をさげさせ、赤誠天に通ずるが如き大祈禱をやつた。其の後で、彼れに向つて「何か不快の事があッて、酒に憂ひをまぎらして居るのではないか。」と徐ろに問ふた。彼は妻は死ぬ、子はなし、獨身者で、何も心を慰める者がないから、酒を飮んで樂むのだと答へた　其れは實に氣の毒なことだ。サア此の聖書を讀むと、酒を飮む事をやめても、心は何時も愉快になる　之れを遣るから、歸つてから、能く讀め、と諄々と說き聽せた。翌日氏は直ちに其の者の家を訪ふて、充分に慰めてやり、暇ある每に通ッて說教を聽せて、遂に大の信者にして了ッたのである。總て這な風で、貧乏人や、悲んで居る者の爲に、餘暇ある每に、慰撫巡囘をする。惡んでも遣る　教會の月俸は大抵之れが爲に注込んで居たらしい。其所で教會員の人望は非常であッた　所が又不思議な質で、思ふた事は何でも忌憚なく直言する男で、曾て「薄情の辨」やら、「名役下馬評」やらを教會で、堂々と演說をした爲に、基督教の教旨に背くとか、教會を汚すとか云ふので、牧師間の非難を受けて、終に其の職から放逐された　其の時には同教會の信者は氏の去るのを聞いて、非常に激昂もした　排斥者に反抗もしたのであつた。又那の男の變つて居る一例を擧げて見やう　時々下宿屋住ひの友人の所へ泊まりに來て、二三日も居る。それで、何の爲かと聞くと、狹い宅に妻君と二所にばかり居ると、人間臭くなつて、理想の境に心を遊ばせる事が出來ないから泊まりに來るのだと眞面目である。或時の如きは、我々までも手に汗を握つた事がある。と云ふのは、米國の宣教師某氏が細君の病氣の爲に任期未だ滿たざるに、日本を去るといふので送別の會があつた、

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

其の時の演說の激烈だつた事で、由來白人は女にのろい、取わけ米人は女に甚だのろい、其の爲事業を中途に廢するの弊が多いと云ふ冒頭で、正面から攻擊的送別辭であるから驚いた。奇矯を衒ふのかと思ふと、腹の底から眞面目で、眞摯直截であるから、彌々甚だしい變物である。學問も中々出來る、筆も馬鹿にはならない。英語の通譯などをさせても、那の位流暢に緻密にやる者は多くない。それで〇〇さんに心服して、僅かな俸給に滿足して、立身出世は夢にも願はずに、巢鴨の豚小舍然たる、陋屋に泰然自若として居るのは、凡人の業ではない。それで、友人が遊びに往くと、赤貧洗ふが如しであるにも拘はらず、其の親切な待遇には感服する。御馳走よりも其の心持が實に難有い。友人として那の位賴母しい男は未だ曾て見たことは無い。所が少々困るのは、僕の宅などへ來ても、妻の居る前でも、遠慮なくどし／＼婦人の弱點攻擊を始じめる。何處へ往つても同じ調子だらうと思ふ。能く友人(寧ろ面友)などの悪い奴が彼れの淚脆い所につけ込んで、貧乏の中から、金までを取つて往くさうであるが、彼れは少しも之を悔ひないらしい。婬者論女郎論も熾んにやるが、其の癖自分の品行は實に潔白なもので、微塵汚れた所は、探してもないから、面白いではないか。機會があつたら、遇つて見たまへ、中々得がたい快男子だから(二氏の口吻は決して斯うではない靑柳君に對して常に多くの敬語を用ふる)云々。これ宇津木小田内二氏を通じて、余が未見以前に知り得たる有美君の人物その者の梗概なりし也。今春以來は屢々面晤するの機を得て愈々二氏が言の我れを欺かざりしを確認せり。唯我が豫想せる所と違へる如く感じたるの點は、筆執りし時の有美君程には、膝を交へて語る時の有美君は、鋒鋩露骨ならず、又多辯ならざるの一事なりき。君は寧ろ自說を語るよりも他の說を細密に聽かんとするもの丶如し、否寧ろ緘默靜視して其對手の長所も短所も一々觀破して遺漏せざらんと力むるに似たり。而して往々機先を制するの一喝を下して、他の識と膽とを驗せんとするの癖あり。這は故海舟先生の皆を學ぶものか非か。爾も甚だ無邪氣にして、天眞流露、親むべき所を存す。宏量坦懷、他の說を容るゝに吝ならざる如くにして、其の實、自信甚だ堅くして容易に他の言に聽かざる趣あるは一種の癖には相違なきも、君が特色は此點に於て、今後大成の日、世を驚かすに足るものあらん。

余は多角、多面にして端倪し易すがらざる有美君の人格を知悉するには、自己の

眼光の甚だ鈍きを覺ゆるもの也。特に其の博覽洽識の素ありて、多年〇〇〇〇先生の下に、深き修練を重ねたる君が、燃犀透徹、警拔人を驚かすの觀察眼を品騭するには、我が才學の餘りに乏きを耻づるもの也。然れども、余が『戀愛文學』に對する卑見を遠慮なく吐露するは、決して君に對する友誼に背くものにはあらざるべしと信ず。

余を以て見るに、有美君の議論や主張や、世評の如く、決して奇矯に過ぎたる沒常識のものにあらず。唯人をして如上の感を起こさしむる所以のものは、君は讀者の注意を喚ぶの工夫を凝らすの結果、先づ奇拔なる標題を揭げ來たること、是れ一因也。例へば「鬼面百相」「悪魔の結婚觀」「佳人七ツ道具」「奉圖洲堀越秀君閣下書」「富める女を娶るべし」「糞臭學原理」「幽靈の電氣學的說明」等の如し。尋常の人ならんには、君と同一の事を論ずるにも、如斯き奇題は概れ避けて用ひざるべし。君は力めて此の類の標題を選むが故に、本文を讀まざる中に、先づ普通の讀者をして、奇矯なる論者なるべしと豫想せしむる也。隨うて先入主となりて、爾まで奇矯ならざる說をも、非常に奇矯なるが如く解せらるゝの虞あり。されど是れが爲に、確かに讀者の留意を惹くの力强きは、爭ひ難し、一得ありて一失は伴へる也。又君の說く所は余を以て見るに、世人の云ふ如く、甚だ奇なるものとは思はれざれども、唯其の好んで、言を世人の多く觀過する、眞理の斷片を拾ひ來りて、之れを朗々大聲もて唱ふるが故に、爾感ぜしむ。是れ其の二因也。譬へば、路上の金塊は他の獲るに任せて、己れは泥溝の中より砂金を拾ひ來りて、高く揭げて人に示すが如きか。故に君が說は瞥見の際は頗る奇想なるが如く覺ゆれども、熟讀翫味すれば、概れ尋常一樣の眞理の斷片のみ。深く人をして怪訝の念を抱かしむる所以は、其の取材の方面を他の手を下さゞる處に求むるに因るなり。さればコロンブスが鷄卵直立の名譽は、確かに君に許さゞるべからず。余が敢て奇矯にあらずと言ふは、平凡陳腐といふの意にあらず、眞理の一面を發揮するものにして、決して沒常識の異端を說げるものにあらぬを認むと云ふに外ならず。若し此の場合に於て君に請ひ得べきことありとすれば、泥溝中に埋沒せる零碎の黃金よりも、他に大金塊の途上に橫はるもの世に多し、爾も世人の多くは、日夕是れに躓きながらも、眞に之れを認め得ずして、心の貧しきに泣く、希くは先づ千萬人の盲者をして、此の得易き眞理の大金塊を認むるを得せしめ、其の光に浴せし

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

むるの道を講ぜらるゝ事これならんか。されど余は如斯きことを君に強ひて望まざるべし。何となれば、圭角なく、異態なく、桶に盛れる里芋の如く、濱邊にころがる石の如く、碌々たる人物のみを得て、世の平穩無事を只管祈るものにあらざれば也。一色は大谿を成すに足らず、平板の論壇には大なる眞理の顯揚を見るべからざれば也。君は飽くまでも、君の長所を將て愈々埋沒せる眞理を開拓せられざるべからず。唯その奇警燃犀の眼を、いよ〳〵大所、高所、深所に着けらるゝを切望するのみ。更に人をして君が説を奇矯なりと感ぜしむるものは、其の文の奇なるより來たる、是れ其三因也。換言すれば、其の説きざまの奈何にも仰々しきこと、其の比喩の往々意表に出づる、思ひ切りて極端の形容詞を用ふるが如き、屢々誇張に過ぐるの嫌ひあるまで、高き調子の辭句を臚ぬること等是れ也。例へば、團十郎を西郷南州に比し圓遊をアリストートルに比するの類なり。上述の三因よりして世人は、君が説を遙かに實際には過ぎたる強き度に於て、奇矯、偏僻、曲論、異端、沒常識、狂文字等の惑を以て讀むに到るべきを信ず。是れ多くは皮相を瞥見するの徒の誤解のみ、深く翫味する者は、概ね其の深意を了得し、莞爾として點頭せんか。

前に述べたる所は、單に君の説を誤解し、將た酷評する、世の妄評家に對して、聊か解嘲の辭をつくれるに過ぎず。更に一歩を進めて余をして君が着眼と議論の結構法と及び其の文章とに就いて、少しく言ふところあらしめよ。

君が趣味は廣し、君が取材の範圍も亦廣し、文學、哲學、美術、宗教、音樂、教育、演劇、落語、その他、往々政治經濟の事にも渉りて、縱横に論じ去り論じ來たる所、今の文士には此の點に於て多く匹儔なし。而して常に其の着眼、着筆、他のせざる方面に於てし、卒然之れを讀めば、必ず人を驚かしむるは、既に言へるが如し。而して君が議論を行るの跡に就いて稽ふるに、概ね獨眼を將て、直ちに事物の神髓を觀破せんと欲するものゝ如く、所謂直觀を以て唯一の武器とするに似たり。往々科學的知識を藉りて、自家の論據を築くが如く見ゆるものも、再三翫味すれば、寧ろ這は既に直觀にて得たる或説を敷衍し、補充し、修飾するの用に供するに過ぎざるに似たり。されば、君も「我が直觀で睨んだからは、爾々はづれるものでない。」と自白せられたり。科學の基礎に立ちて、而して後、徐ろに直觀すといふ事、科學も亦直觀に依りて開始せられ、將た進歩すといふ事と、先づ直觀に依りて開眼し、立論し、斷案す、而して後に、科學的知識を備ひ來りて補充し修飾するとは、幾許の相違あるかは、今詳言するの餘地なし。然れども、直觀は例へば、遠箭に物を射るが如くならんか。名手と雖も損じ過りの無きは保すべからず。されば、睨んだ眼が意外に大外れに外るゝことの屢々あるは、代々の哲學の變遷史など明かに證する所ならんかと思ふ。君は自信の人なり、隨うて直觀を尊ぶこと亦恐らくは度に過ぎたるものあると共に、比較的に歸納的研究を重んぜざるの傾向あり、經驗智を渴仰するの念薄きが如し。其の結果として、往々獨斷、輕信、早合點の弊を免れざるもの尠なからぬ趣あるやうに思はるゝは、余が一個の偏見なるべきか否か。余を以て見れば、是れ君が病ひの一なり。且君は或事物に觸れて、直覺一番、胸裏の靈光一閃すれば、その間に或意味或條理を認むるなるべく、一旦之れを得ては、多く腦裏にそを反覆熟慮するとをなさず、他の根本理と奈何の關係ありや、否、一分の理か、全分の理か、自家の世界觀上、何の位地、何の段階に立ちて、統一せられ、調和せらるべきものか否かを、深く推究するの遑なきものゝ如し。感するに隨うて、直ちに之れを筆にし、文に綴れて、顧みざるの疑ひなきにあらず。故に君が論には、往々統一を缺きて、矛盾撞着に類するものを見ること、甚だ尠からざるやうに思ふ。斯くいふも、余は決して、人の説に變遷と進化とを拒むの意にはあらざる也。兎も角君が説は眞理の一面、又は一片としては正しきもの多きも、更に高き根本理との契合を缺き、竟に眞理として成立し難きものあるやに思はる。而して讀者をして斯くの如き感想を強からしむるものは、諷刺的反語的筆法の濫用に基する所のもの亦あり。かくの如き筆法は、決して非難すべきにあらず、這は寧ろ君が文に力あらしめ、異彩あらしめ、將君が特色の發揮するには、最も恰好なる筆法ならんも未だ知るべからず。爾も此の種の筆法は、尋常の讀者には、極めて危險多きものにして、往々大誤解を招くの虞ある也。『掏摸公許論』の如きは其の適例の一なるべきか。『佳人七ツ道具』の世の非難を受けたるが如きは、其の適例の二なるべきか。縱し此の筆法の煩ひを除くも、確かに君が立論には、統一と概括とを缺くの點あるは、公平なる批評家の、必ず是認する所なるべしと信ず。是れ病ひの二なり。君は常に力めて、前人未言の言を立てんとするに似たり。故に酷に評すれば、議論として（寧ろ一篇の抒情詩として）見れば、極めて趣味多く、又華やかなれども、坐し

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

て言ふべく、立つて行ひ得べきもの、比較的に僅少なる心地す。蓋し余を以て見れば、君は經世家、論策家にあらずして、寧ろ詩人なり、明治の文壇に於て比類稀れなる好詩人なり。故に君を以て、若し議論家とすれば、此の點は確かに病ひの第三として數へ得べきものなり。

君が爲に非難の點三條を擧げ來りて、更に靜に思ふに、我が既に言へる所のものも亦甚だ矛盾多きに似たり。余が如き怪しげなる論理の腕き繩もて、大才、天馬に比すべき君を縛せんとするの、極めて愚なるを思ふては、最早や筆を擲たんとする也。余は懺悔す、嘗て始めて君が文を讀むや甚だ多く注意を與へざりき。後少しく繙讀の度を重ねて、中々奇妙なることを吐く、面白き男かなと思へり。近來に到りては君が作を洽れく通讀して、深く翫味するに、其の大才驚くべきものあり、實に得難きの大人物なることを知れり。今や畏敬の念、天風の如く我が胸懷の中に吹き來たるを覺ゆ。君が如きは稀有の大才にして、余が如きもの實は到底品隲の任にあらず。其の立論に矛盾あるも可、統一を欠くも可、其の文章に破格の點あるも咎むるに足らず、君が眼には靈火あり、君が筆には神彩あり。其の膽大にして剛毅、王侯の前に立つも信ずる所は必ず言ひ、海立ち山飜へるの境に處するも、思ふ所は、敢て行ふの勇氣と自信と、貧に安じて道を行ひ、篤學にして售ることを願はざる克己と精勵とは、君が文才の偉なるよりも、更に偉なりとす。貧著の卷頭に如斯き贅文字を題するは、極めて罪を得ること深しと雖も、此の偉人の第一作に、我が蕪辭を添ふることの光榮多きを感謝せざるを得ず。

明治三十三年九月某日識てしるす

女學雜誌第五二三號　曩に福澤翁が瘠我慢論を公にして勝海舟翁を難するや海舟翁に親炙し尊敬せる女學士は一文を草して福翁の議論の誤れることを駁せしが本號に於ては福翁が丁丑公論の舊稿を出して西郷南洲翁を辨護したるに對し福翁の辨護は却て南洲の精髓を誤れる者なる所以を論せり瘠我慢駁論と共に近時の快文字と云ふべし（每日新聞）

評論

最近の時論と家庭

山形東根

凡そ俗論紛然として湧出するは、皆其根本を忘却して末伎に奔走するの時に於てす、熟々昨今の時論界を見るに、只管流行を追ひ同一題目を繰返すか、新奇を衒ひて意表に出てんとするか、若しくは陳腐の説を難澁の科語をもて解釋せんとする者に非るなし、歷史は繰返す、世には往々此の如き時節の存するものなり。

昨今紛々として紙上に載せらるゝ論爭、計畫、一に何ぞ其末に走りて其本を顧みざるの甚だしきや、我輩は先づ彼等に對つて「少しく靜まれ」「內を省みよ」「囂々として騷ぐ勿れ」と忠告せざるを得ざるなり。社會を言ふより先づ家庭を言ひ、腐敗を嘆ずるより先づ家庭を清潔にせよと言はざるを得ざるなり。蓋し家は其本なればなり。

倫理云々は近時の流行中の流行なり、倫理專門の雜誌二三種

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

出て、會合もあれば論說もあり。倫理問題の流行や可ならざるに非ず、吾人も亦大に之を奬勵せんと欲す、而かも今日紛々として出つるものは、唯流行的議論のみ。曰く利己主義は不可なり利他主義は可なり、曰く公德は養成する必要あり、曰く德育は何々と、所謂主義、所謂學說の繰返論、幾度繼續するも何の用かある、新奇に走る所謂學者輩の閑事業としては一顧の價あるべしと雖も、國家民人の實際に涉る所、抑も幾何かある。高慢無禮、野心に富む愚物等が如何に巧妙の論を吐くとも國民の道德に何の益あるべき。今日の學者の倫理論の如きは全く蔑視して可なり。

言葉多くして品少なき流行論者に聞かんより、先づ手近なる人物の間に美點を見、之を尊び之を發揮せしむるに力めんかな。彼等學者論よりは薪屋の主人、酒屋の旦那、田舍小學の敎師中に其倫理の實際を見ることを力めんかな。口上の主義論よりは實際卑近の實行に倣はんかな。今日倫理〳〵と叫ぶもの丶人格を見よ、不遜の學者、靑書生の輩に非るなし、若し彼等の愚論を讀むの暇あらば、乞ふ家に歸りて子女と共に樂め、倫理の實行之より出てん。

公德問題、之れ實に吾人の久しき以前より警告せし所、近頃は所謂學者間の流行問題となれり。公德とは何物ぞや、私德修らずして未だ公德の高きものあるを見ず、私德は本なり公德は末なり、今日の學者の如き學問を以て生命とせず、俗に阿ねり、閥を造りて立身出世を唯之れ力むる如き輩儕等の喋々容喙すべき價安き問題に非るなり。吾人は其流行を追ふて陳腐の繰返をなさんよりは、先づ家庭に於ける道德修養に力を盡さんとを望まさるを得ず、家庭敎育の不十分なるものは學校敎育に於て癒さんと容易ならず、如今、德育の方針とか倫理敎師とか、種々の議論喧びしくして、當局者自身其の摸範となると能はさる際、他を強ゆるも聊か効能あるべからず、彼等の五里霧中にありて試驗的に種々の計畫を爲す如きに依賴せず、先づ家庭より始めよ、父母の感化にて能く敎育すれば、公園の樹木を折らず、道を行くに避くることや、公共物を破損せさる如き今日の論者の所謂公德位は一朝にして高進せしめ得べし。

經濟界の不振につれ、勤儉貯蓄論盛なり、不景氣の聲は漸く高く、恐慌亦所々に現はれんとす。此際勤儉貯蓄論甚だ可な

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

りと雖も、外面上人前に於てのみ勤儉の風を粧ひ、上流者始め奢侈に耽ると太たしくして唯其聲を高むるも何の効かあるべき、既に井上伯の如き、勤儉唱道の結果として、日本人は日本人生産の物品のみ消費すべしとて一種の鎖國論を吐き、益々人心を小ならしめんとするに至りては、笑ふべし。

今の勤儉論者は身自ら十分に富有となり內裡に於て太しき奢侈に耽りつゝ、唯貧者に對つて心を小にし營養を不良ならしめんとを奬勵する傾向あり、凡そ勤儉の本旨は家庭より來る、家婦能く家計を整理し、主人能く見榮を飾るとを愼み、力めて經費を省けば則ち可なり、然るに今日の論者は外面のみ着目して毫も內部に及はず、或は家庭に於ては吝嗇に近く、外に出ては豪奢を爲し、公衆の前には鹽煎餅を食して、近縣旅行に藝妓を連れ出すなど、表裏反背、前後衝突の擧動を爲して而して口には勤儉論を爲す、斯の如きは貧民を苦むるの結果を生するのみ。

未成年者の禁酒論、甚た可なり、而かも禁酒論を賛成する議員輩の行動を見よ、數輩を除くの外は、飲酒家にして品性又脩まれるものに非ず、禁酒の如きは家庭に於て如何樣にも制

裁し得るものなり、論者等にして其行を改めず、唯一般に法律に賴りて抑壓せんとす、彼等は唯法治せんとして德化せんとせざるなり、廣く且つ淺く外を粧ふに力めて深く且つ細かに內を整理せんとせず、法治の弊も亦至れるかな。

宗教論に至りては、昨今議せらるゝもの一として聞くの要なし、唯流行の「精神的」と呼ぶは一段の進步ならん、凡そ宗敎論として空文虛談何の價値あるものなきと今日の如きは稀有なり、或は將來の宗敎は倫理的ならざるべからず、科學的ならざるべからずと云ひ、或は比較研究、或は融化統一、殆んと學者の閑文字にして、彼等に取りては大に珍しからんも、斯かる論議は千百續出するも、民人の宗敎心には何の係りなし、要するに弄宗敎問題にして死文字なり、今の宗敎雜誌や論議は全く見ずして可なり、彼等に聞くの暇あらば先づ古聖賢の傳記を讀む寧ろ益あり。エマルソンは一年を經過せざる書は讀ますと云ひ、某僧正は千六百年以後に出版せられし書を讀ますと決心したる時は、生涯中最も快心を覺えたりと聞けるが、科學書類は別にして我國に現はるゝ學者の宗敎論の如き之を讀まさる決心を起すは、最も信仰を高むるに

（一一二）

必要なり。特に笑ふべきは論者は唯流行を追ふものにて、其家庭に於ては全く無宗教たることなり。凡そ宗教の必要を感せば先づ家庭の宗教、家邦を重んじ、祭日又は誕生日等に於て又は日曜日に於て子女相集まり、古聖賢の遺訓を誦し、共に道に進まんの心掛けを為すこそ必要なれ、論者等の如く愚人や俗人には宗教を要すべしといふ如き調子を以て如何に巧妙の議を爲すも、宗教界を野卑ならしむるの外、何の用をもなさゞるなり。唯家邦を忘らさるこそ其信仰の根本となるなれ。

風俗の頽廢を嘆ずる聲は近來實に喧びしきものなり、社會の風俗は末なり、家庭の風儀は本なり、然るに外形末伎の頽廢を嘆じ之を議するもの其原因を外部に歸して、家庭の風儀の亂れたるを知らさるか如し、良家庭より惡人生ぜず、惡家庭より善人生ぜさるは通則なり、外に出てゝ惡事を行ふもの豈に家庭に於て善事を行ふものならんや、若し斯く見ゆるものあらば、そは風評に留まりて眞相を穿てるものに非ず、先づ家庭を清めよ、風俗の如き言ふの要なきに至らん、

國家と法律の萬能を信ずるものは、未だ社會改良を談する

に足らず、家庭に觸るゝことなき社會問題は空なり。

理想を高むるの個所は家庭にあり、教育の眞義は家庭教育にあり、犯罪の多寡は家庭の風儀如何による、品格の養成も不德の減少も、惡風の矯正も皆な家庭に於て爲すものこそ、眞効果を呈すべけれ。

人、口を開けば過渡の時機といふ、過渡の時機に於て最も危險なるは家庭の亂雜なることなり、清國は國家亡ぶるも社會遺るべしとは何人も言ふ所、而かも清國社會の病弊は家族の形式に流れ、婚姻の眞を得さる、儒教主義の實際に行はれさる離婚の名なくして其實多き等の有様は、其不振を來すの一因なれ、又我國方今憂ふべきもの多し、而かも封建の風破れて從來の格式變遷し、家を造る所の靑年子女の亂雜なるは特に憂ふべきものなり、

試みに成上りの新華族を見よ、車に乘らされば品格を保ち難し、美服を着せされば人前に出ると能はず、馳走せされば交際出來ず、贈賄せざれば立身難し、阿諛を力めされば昇進すべからずとして、全く己が一身の昇進を目的として、時流を追ふ、此故に百金あれば百金を費し、千金あれば千金を費

し。斯くて生活に困ず、正さに愚の至りなり。彼等は大厦高樓に住みて不潔の家庭を造るも、官位上れば目的足れりとなすが如し。斯の目的の爲めに閨閥に據り、持參金に着眼す、未だ家庭の樂みを知らざるものと云ふべし。衣以て寒暑を防ぐに足り、食以て飢を凌ぐに足り、餘りあれば之を弱者に施こし、尚餘りあれば之を貯ひ、子女相親み朋友相集り、道を聞き道を行ふに力めば、天下は必ず無事なるべし。

木かげの虫の音

しづ子

きゝなれし　草の庵に　音たえて
たゞ虫のねの　いさあはれ　秋のをとずか
露しげき　涙の水に染ぬるる　ほそきしづけき
しらべをば　妻の手なれし琴の音と
きかんとすれば　影もなし　三日月のさがまの光
きらめけば　わが村雲をたちれかし　森の木梢
にふく風の　わが胸のうち拂えかし　糸よりほそき
虫の音も　しばしつゞけてなきれかし　いざく
われももろともに　人知らぬまに　なかんとぞ思ふ

雑　録

博士新渡戸稲造氏の演説

（二月十三日東京明治女學校に於て）（其二）

▲或る女生問ふて曰く　米國發達の原因は如何。又其將來は如何。

●博士答へて曰く　今度の巴里博覽會は、能く各國の性質を示して居るものであるが、誰れの眼にも、この博覽會で氣がつくのは、これから日の出の國は、亞米利加と獨逸とであるといふことだ。露西亞もエラクなるだらふが、これは仲々ヒマのかゝることで、今直ぐといふ譯には行かぬ。私はアメリカの女を女房に貰ッては居るが、私自らは極アメリカをイヤだ。然し、エライ國になるだらうといふことの確信は、今度の博覽會を見て、甚だ增して來た。今日商業の中心は龍動であるが、將來は世界の商業の中心のみならず、金融の中心なども、紐育になることだらふと思ふ。或る人は……それでも資本が多く龍動の方からアメリカに這入ッて居るから

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

……といふが、資本が這入ッてをれば、尙ほ更らのことで、これからは、資本の運轉は凡て紐育でさせて、自分は英吉利の方で安樂に暮らして居るといふ樣な工合に、英國はまづ隱居所の如くになッてしまふだらう。獨逸も成る程大きくなる、又既に萬事隆盛になッてはゐるが、世界中最大になるものは恐らく米國で、獨逸よりもズッと上になるだらう。現に其萌しが充分現はれて居る。その此く發達する原因に就ていへば、

（第一）國が大いからだ。國が大きいから物産が多い。畠などの一つで大きいものゝあることは、殆んど想像以外であッて、畠を耕すために馬に乘ッて行く時に、先づ途中で一泊し又翌日續けざまに耕して行き、また翌夜も畠の中で泊るといふ仕末だ。一人の歐羅巴人が米國で滊車に乘ッて或る停車場に止ッたから、これは何んといふところだと尋ねたら、マックスウエルといふところだと傍の人が敎えてくれた。次に又停車場に着いたから、これは何處だと聞いたら、同じくマックスウエルだといふ返事だッた。又新らしい停車場のあるところに來たから、今度は何處だと聞いたら、今度も又マックスウエルだといふことであッた。そこでドウも變だ、アメリカといふは無茶にマックスウエル……マックスウエルとマックスウエルといふ所の名ばかり多い國だと段々聞いて見たら、この三つの停車場ともマックスウエルといふ一つの畑のうちに設けられて居るステーションだッたそうだ。大躰マアこんなに信じられない程大きい國なのだから、それから出る産物も非常なものだ。多く其産物といふは麥と家畜で、歐羅巴人は、殆んど米國の肉と麥とで生き居るといふてもよい位だ。近頃、米國で大きな軍艦が製造される樣になッて來たがこれは麥のお蔭だといふことだ。一寸聞くと可笑しいが、至極尤もな話で、毎年非常に多く出る麥を外國に積んで送り出すに就て、出來るだけ大きい船を拵いたいものだと工夫をするところから、造船術が大變に進步して來て、遂に軍艦の大きいのをも上手に造る樣になッたとのことである。

（第二）氣候にも關することで、全躰に乾いてオゾーンが多い。オゾーンが多いから、隨ッて人民が凡て活潑である。

（第三）は政躰によるのだ。あゝいふ政躰であるから、人民の上に束縛などゝいふことは少しも加へない。誰れさまにで

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

も思ひ切ッた精一杯なことを、何でもドシ〳〵やらせる。或る時、私はさる米國人と話をしながら、非常に貴族のエライこと丶國家に欠くべからざるものたることを滔々辯して知らして置いて、扨さらに語を改め　しかしお前の國の米國には、貴族がなくて平民ばかりだナー　と、一本突き込んで冷してやッたら、その米人は……なる程ソウだ、おれの國は貴族はない、しかし其代り居るものは皆な王様ばかりだ……と答えて、大に私をやり込められたことがある。まことに其通りで、アメリカ人は皆なドレも〳〵王様であるといふ氣性の心持ちだから、何事も憚からずにドシ〳〵やれる。

●（第四）萬事實際的で理窟を言はぬ。或る人は、獨逸人は哲學を考えるが、亞米利加人は哲學を實行するといふた。誠にその如くで、百事實際に行ッてゆく。

●（第五）亞米利加人は、皆な大法螺吹きで、何事も話が大きい。しかも、その法螺が空法螺でなくッて、一方に吹きつ丶一方では、着々その法螺を實行してゆくのである。奈良原といふ男が、曾て西洋に行く時、西郷さんの所に暇乞ひに行ッたら、西郷さんは、外國の方は大變進歩して居ッて、馬車なんかは馬鹿らしいといふので、皆な虎に車を引かせて居ると言ッた。奈良原先生行ッて見ると、マサカ虎が車を引いても居らぬ。ソコで歸朝ッて來てから、西郷さんに行くと直ぐに……奈良原どうだ？　虎が車を引ひてたッたか……と問はれた。すると――ハイ……近頃は……ナニ……虎でも間に合ひかねるといふので、龍に車を引かせて居ります……とは奈良原の答だッたそうだ。亞米利加人は、こんな法螺を聞いても　或は何んとか龍に車を引かせる工夫は無いか知らんと考えて、遂にはイッか引かせる樣にする。亞米利加人の法螺のヒドイことは新聞の廣告などでも能くワカるが、その法螺の廣告を見て、未だ人の住んで居らぬ原野などに出かけ、そこを開拓して自らその廣告の文句にある樣に繁盛な良い土地にしてしまふ。

●（第六）に教育が良いのだ。亞米利加の教育といふものには別にワクが無い。親に對してとか國家に對してとかいふ樣に何に「對して」といふワクを拵えて教育を施すことをしない。何んでもやる丈けやれといふのだ……伸びるたけ伸ばせる

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

のだ。それだから、ウソの無い正直な男らしい男、女らしい女が出來る。リンコルンの樣な工合な男は、兎ても米國の敎育でなければ出來ぬ。あァいふ人は外の國にはあるまい……丸でロッキー山の岩を切り出して持つて來た樣な人物だ。男だか女だか解らぬ位で、今四百萬の紐育を指揮してるかと思へば、一方では又メソ〳〵泣いて居る。丁度仁王と觀音との雜種といふ質だ……あァいふ人を作ることは兎ても餘所の國の敎育では出來ない、米國の樣な自由敎育の國でなければ、兎ても出來ない。

▲或る女生問ふて曰く　米國女學の狀態如何。

●博士答へて曰く　一槪に米國の女が受ける敎育といッても、階級によりて違ふ。然し、皆な先づ小學校に行く。近頃ではキンダー・ガーテン　所謂幼稚園に相對して　キッチン・ガーテンといふものが出來て、これは幼稚園の樣に、敎育の傍ら台所即ちキッチンの事を敎える……即ち皿洗ひの歌などいふものがありて、これを歌へば自然に皿は如何なる順序で洗ふべきものかといふ樣なことが覺えられる樣になつてるのだ。之れに少さいうちに行くものもあるが、小學校に就て私の甚だ

感じて居ることは、大凡そ二つある。(第一)は先生が頗る非常に親切なことだ。一躰那國の人は凡て親切なもので、曾てカリフォルニヤの圖書館に行つてたら、二人の小さい小供がやつて來た。其處の書籍掛は若い女だつたが、小供等が來るのを見ると大變に親切に其側に往つて、ドンな本が欲しいかといふ樣なことを問ふ。すると、小供は……今度先生から言ひつけられて、學校で何か詩を暗誦せねばならんから、その書物を借りに來たといふた。そこで、その書籍掛の女は、これがよからうの……あれがよからうの……と書物を三四冊出して來て、親切に其暗誦する詩を定めて敎えてやッた。次に又、中年寄のおカミさん風の女が、一人の小供を伴れてやッて來た。何を尋ねるかと氣をつけてたら、今度は料理の本を借りたいといふことだッた。……どうも是までは覺えて居ッた料理ばかり拵えてやッて來たが、長い間に亭主もアキたらうから、何か本を見て新らしいものを拵えて食はして見たい、就ては何んな本が良からう？といふので、又その書籍掛の先生いろ〳〵親切に、……これがよからうの………これがよからうの……と相談に乘ッて定めてやッた。そ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

れを見て私は實に感心した。これが日本で御覽！……書籍館に行ッて、こう〳〵いふものを調べるには、何がよいでしようなんていふものなら、ソンなことは知ッてる限でない目錄を御覽なさへ！と忽ち一喝されてしまふ。（第二）に、先生は、總べて實際のことに當りて敎えて、所謂實物敎育をやる。實際のことに當りて覺えない智識といふものは、甚だ役に立たぬもので、隨分これがために困ることがある。それで思ひ出したが、或る百姓が五升芋を堀ッてた所に、一人の男が通りかゝッてそれは何だと問ふから、これは五升芋といふものだと答へた。すると其男は非常に怒ッて……ナニそんなとがあるものか、それはウソだと言ひながら、その芋を手に取りて見て……五升芋といふものは、こんな色のものでなく白いものだ、それにこんな冷いものでなく、熱いものだといふたそうだ。そこで百姓は餘り可笑しいものだから、貴公は誰だと問ふたら、乃公は農業雜誌の記者だッて言ッてすまし込んでサッサと行ッてしまッたといふことである。實際に當らないで敎える敎育の弊は誠にこんなものだ。米國などでさへ私の知ッてる小僧のうちに、麥の生へてるのを見せて、麥だといッても仲々信ぜず、小麥は木に出來るものだと主張してたものがあつた。小學時代に續いて中學時代となるが、昔は學問といふものは、三つのR即ちリーデ井ング、（讀方）とアリスメテ井ック（算術）とライテ井ング（書方）とを學ぶにありとしたものだ。然し、今では三つのH即ちへッド（頭）とハート（心）とハンド（手）とを訓練するといふことになッて來て居る。それで、頭と手とのみならず心の方にも意を用ひて、動物逆待などいふことをさせない樣に敎育する。次に大學時代となりて專門に取りかゝる樣になれば先づ一番に文學醫學を修むるものが多い。その外政治經濟諸種の科學及數學などを專門にするものも出て來る。然し、法律を修むるものが一番少ないらしい。兎角女は本ばかり讀んで居れば、御飯を炊ひてもヤワラカにゆかないで、シンが出來て困るといふ非難もあるが、何に！シンが出來てもよろしい……學校を出さへすれば直き自然にシンが無く軟く炊ける樣になるから、學校に居るうちには少し空想といはれても笑はれてもかまはない　充分に理想を養ふ樣にして、理想の高くなる方の本をばかり澤山にドシ〳〵讀むことにするがよろしい。學校では何んでも理想を高くすることが必用だ。それで後からは丁度よい位になるから　。（了）

郎君の洋行を送りて　こゆき

別れては心のみこそ通ふらめ君がみそはに朝な夕なに

隨感

○不憂人不知憂不知人

高く達する所あり、切に得たる所あり、堅く守る所あり、而して天下知己なしと思はんものあらば、其は志の弱きなり反省せずんばある可らず。吾すでに我を知れり、豈に反響する所なからんや、蓋し。人心の感應は、あらゆる鋭敏なるもののうちの其の尤たり。同類相引き、同氣相求め、其の人格の程度に隨がつて相應はしき伴侶を探り索むる状、殆んど天賦自然の慾情に似たり。左れば、吾が品格に類似したる先輩は我が知らざる間に我を牽引しつゝあり。吾が品格に近似したる同輩及び後輩は、我が識らざる間に我に贊助しつゝあり。之れ知ると識らざるとによりて差引あるにあらず、相引くこと人の自然にして、人亦た已むことを得ざれば也。此故に、天下皆な吾に敵し、十方悉とく閉塞せりと思はなん其時も、尙ほ意外なる知己の意外なる方面に潜みつゝあることを忘る可らず。左れば、吾の我を棄てざる限り、吾に似たる他の我の必らずや何處にか存することを信ず、これ知己に樂しむの秘密なり。此を以て、吾を能く知らざる万人の吾を見つゝ謳歌するの賴母しきことにあらざると同もに、吾を誤まりて罵しりつゝある万人の吾に近く騷々しきことも寂しきことにあらず、天下必らず眞知己ありと思へば也。古人時として叫ぶらく、百年知己を待つと。此は絶望消極の悲しき聲にあらず、其の必らず之れ有ることを信ずれども、たゞ百年の後ならでは人に知られまじきほどの先見と思へばなり。而して、百年とはたゞ形容詞にはあらず、百年は一世期にして、大勢妙に轉じ、人の悟感の翻がえつて一進歩する時機なるが故なり。此を以て、人は知己なきを憂ふる莫れ、知己は必らず有り。知己なしと言ふは、自からを禽獸に比し、人の伍伴を脱したりとするにひとしからん。故に先聖の曰く、人の知らざるを憂へず、人を知らざるを憂ふと。是れ、吾品格の幼稚にして、高級の人士を知りがたきこともやあると、自から戒しむることあらんを要する耳。毫も人の知らざるを憂ふるを要せず、如何なれば人は必らず知るべければ也。

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

○見ぬ戀、盲人の戀

見ざる人を戀するも麗わしけれど、我に戀する人のなからずやと信じて自から温たかにする、更に氣高し。人年壯くして尚ほ得心の伴侶なきとき、心ひそかに寞寂たるは血氣に免かれぬ情なれども、未だ輕々しく天下伉儷なしと悲しむべからず、百年の友必らずや存す。凡そ、人心感交のうち、戀思の結ぶヿ尤とも鋭敏、男女の相引くヿ其の第一たり。吾もし吾が信ずるほどに修め得たる丈夫佳人ならましかば、天下豈に之に引かるべき他の半身のなからずや。もし苟しくも之ありとせば、知ると知ざると亦た問ふヿを要せず、况んや見ると見ざると、交わると交わらざるとの末節をや。われは茲に於て、盲ひなる人の戀ひてふ者に一種の靈氣あるべきを知る。

○天文に觀る

易に云く、觀二乎天文一以察二時變一と。今の人大抵天文に觀て時變の察すべきヿを思はざるのみならず、之を言ふものを笑ふをもての明なりとせり、識見むしろ稚にあらずや。大凡そ人事みな地文に支配せらる、地理を知らずして國民を談ずるの愚なるヿは、十九世紀の首肯したる所ろなり。既に地文によつて支配せらるるヿを知らば、更に一段の類推をもて、其の天文に支配せられ、又其の天文と關係する所以、測知すべきにあらずや。且つ、東人言ふ所の相學は、西人の骨相學と相ならびて、今人のやゝ信を措んとする處となれり。複雜せる心緒と包圍せる天運とは先づ人の面貌に於て顯現するヿの承知せられんには、人生の事亦先づ天の文に於て映ぜんヿ寧ろ當然にあらずや。天地人間もと二にあらず、天は乃わち万有の爲めの顏面なれば也。凡そ、天文の事、理數の道による、苟くも違わず、宿あり、系あり、期あり、時あり、人事の變化と同もに隨つて變ずべきにあらずと言ふものあれども、更に大觀せば、隨變一致の必らずしも理數と相もとらざる所以を知らん。人の面色は生理の支配する所なり、然も其の生理に隨ふまゝに尙且つ相を呈するヿ難きにあらざるにあらずや。基督の生るるや三星現はる。基督の死するや、天地暗黑なりき。基督教徒の吾言を笑ふものゝいかに此事を解かんとする。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

時報

○和蘭女王の結婚　和蘭の女王ウヰルヘルミナ陛下には、去る二月七日獨逸メクレンブルヒ公國のハインリッヒ公子と御婚儀を擧げさせられたるが、當日宗教上の儀式に先ちて法律上の儀式あり、司法大臣之が主宰者となり結婚契約書を調製し、そのうちには夫君は夫婦間の主長にして女王の財産を管理し、女王は要さして萬事夫君に從順なるべく元金五千萬ギルダーに對する利子を夫君の費用に供せざるべからずなどの條項もありと。

○愛國婦人會の設立　肥前唐津の人にて同地高徳寺の住職奥村圓心氏の妹なる奥村五百子、兄の朝鮮布教に伴ひ廿九年彼の地に渡り、實業學校を起し農工の業を韓民に教え居りしが、東洋婦人の陋態を救濟せんとし清國旅行中、今回の戰役に日本軍人の困苦尋常ならざるものあるを目撃し、感激の餘り戰死者の遺族を婦人の同情に訴えて救助保護せんとの心を抱き、一條公爵夫人以下四十餘名の賛助を得、愛國婦人會なるものを發起し、既に其發會式を擧げたり。

○女服改良會　近頃ステーションの演館よりも喧きは女服改良の聲にて、例の弘田博士は先頃來同感の貴婦人等と相謀り、女服改良會を設立し、既に委員會を開き、改良服の体裁をも略一定し、會員は素より其家族の女子にも可成之を着用せしむることに相約せる由なるが、果して實行の出來るものにや、この所しばしの見ものなり。

○赤十字社婦人社員　本年一月一日現在の日本赤十字社員中、婦人の員數は總計二万〇七百二人にして其内名譽社員十四名特別社員百四十三名正社員一万九千九百五十六名贊助社員五百八十九名なり。

○北越女學校の獻納品　北越女學校生徒は其製作にかゝる神功皇后三韓御親征凱旋の押繪ある羽子板を、常宮周宮兩殿下へ獻納致し度旨出願したる由

○英國婦人の看護婦志願　英國の婦人にて看病に經驗あるメーリー、ジョーンス女史といふもの、東京市に於て看護婦に採用あり度旨願出でたるを以て、衞生常置委員會へ諮詢の上、傳染病院なる市立駒込病院に採用することになれり。

○女教員の体格　山形縣廳に於て同縣下の女教員六十一人に就き體格撿査を行ひしに、其內、强壯者卅四人體格中等廿四人薄弱者、人近視眼十二人なりしと。

○奉天の女軍　これは左寶貴の妻が起せし女軍にはあらねど、去頃一團の土匪蜂起して途中の我兵士巡査を殺傷せし由なるが、其團中に女軍ありてこれを先鋒とすれば、火も燒く能はず素より銃丸の如きは無論命中せずとの迷信より出でしものなりと。

○横濵支那街の雛祭　支那人は一般に陰暦のみを用ひ居れど、雛祭のみは之を陽暦に行ひ居り、本年も横濵邊の支那街にては盛に行れたる趣なるが、支那人は小供の生れたる時のみならず、新婚者にも雛人形を贈り、その人形といふは皆な本國製のアンチモニー其他の金物作りにて、高サ一尺位の仙人官人美人或は又遊樂の狀などを摸し、凡て日本の如き雛壇の上に飾り、白葡萄酒金米糖等を備へ豚の丸煮などに形どれる菓子豚肉入の饅頭など飾る由。

○婦人界の流行　廿二三歳婦人の丸髷用差物は菊牡丹花鳥山水などを高蒔繪にせる月雉形及半京形の櫛笄に、後差は金銀鼈甲製六七分丸の平打簪か但は花桐萬年青、竹に雀などの花物を差込みとなしたるが流行し、根掛は淡色瑪瑙象牙堆朱彫等四分五厘位のもの八九粒を一連とせるが賞せらる〇束髮には無地本鼈甲製にて菊紅牡丹水紅葉菊桐浪に小槌等の古代模樣を透彫としたるが差物に宜しく價は七八圓乃至五十圓なり〇鼈甲を以て櫛簪を造り之を婦人の頭飾と爲す風は本邦のみに限らずして西洋にも西班牙及び其の屬地に於ても廣く行はれ今を距ること六七十年以前まで婦人は大なる櫛を頭の後部に挿するの風俗流行し其の櫛は現今の婦人の帽子よりも大きくして頭の周圍三分の二に渉り頭上に突隆せる高さ六七寸の直立部に種々の花紋を装飾せりといふ。

○いろ〳〵集　日本にて捲煙草を女の內職にしては一日八錢乃至十五錢以上は取れざれど、英國現在の女記者總計五百四十人中の五人は四萬圓の歳入あり〇世界の最年長者は露國モスコー府のロドフステーと云ふ百卅六歳の男にて女は米國ミシガン州のホリフヰーホド夫人なり〇トルストイ伯の夫人は野菜と果物とのみにて一年三百六十五日間每日異りたる獻立の食膳を調ふるといふ〇西藏にては一家に兄弟十人あるも一人の妻にて間に合せ且つその妻は又父子の共有なり〇米國紐育府にて卅年間暖簾を營業し且つ最近六年間政治運動家たりしホール氏は死去の後始めて男装の女子たること現れたり〇米國ミチソタ州會議員チルトンは四十五歳以上の婦人に結婚を禁ずべき法案を提出せり。

○女子雇員及び運輸見習生　鐵道作業局にては來る十日女子十四歳より卅五歳迄を試驗の上採用し見習中は日給十錢を支給し業務熟練に隨ひ十五錢より六十五錢迄を支給する由又同局運輸部にて同十日運輸事務見習生を募集する由。

明治女學校受捐廣告

書庫土藏一棟　校友無名氏殿

金壹百圓（右書庫ノ爲メ）　原　富子殿

金五十圓（同　前）　校內勞働會

金壹百圓（藏書買入費第一回寄附）　鴨村賤夫

巖本嘉志子英文集

こは若松賤子が生存中につくりし英文を集めたるものなり日本人の英文はいかゞしきものとの評もあれど、今や英文流行の折柄、多少は面白きふしもあるなるべしと思はれて廣く世の一顧をもとむ。定價六十錢郵税なし。

巣鴨村庚申塚　女學雜誌社

故若松賤子女史譯述

四版　小公子

全一冊洋裝美本
紙數三百五十頁
正價金三十五錢
郵稅八錢

近代歐米の讀書社界を震動し、劇場に演ぜらるゝと數十百回、一代の流行を左右して、一時年少の子弟をして悉皆小公子の如くならしめしと云ふは、此書原本奇代の勢力なり。純潔無邪氣、天使の如き一少年は、頑陋執拗の老侯爵を感化す、總に興あり、母に佳人あり、貧しきを憐み、小作人を愛撫し、言行惣て甘露慈雨の如し。讀去り讀來るうち讀者亦自から化せらるゝを覺ゆ、何ぞ其の可憐純潔なるや、少年固より讀まざる可らず、婦女老人亦讀まざる可らず。賤子女史曩に其前篇を譯して世に公にするや、譯文の巧妙を以て亦た一時に喧傳す。森田思軒居士之を以て明治年間譯文の最上乘のものとし、激賞措かず、曾て其第一頁を見て忽ち驚き、一夜通讀、曉に徹し遂に卷を釋る能はざりしと云へり。然るに女史其後篇を公にするに及ばずして不幸長逝し、知人愛惜の情を寄せらるゝと切なり。即ち曩に其遺稿を收め、女史が一周忌日に合せんとして前後二篇を合せ刊行せしむ。其友湘煙中島女史は字を題し、郷友松井升氏は密畫を附せり、同好の士、希くは一讀を賜へ。

大賣捌　東京巣鴨村庚申塚　女學雜誌社

公告

歐米漫遊中に付御川の趣は足利町留守宅に御申越下されたく私への御郵書は東京美土代町三丁目青年會內日刊新聞事務所へ御送り被下候はば私漫遊先に屆候

川井運吉

故田崎草雲遺墨展覽會

當る三月廿三日より七日間（入場無料）
上野公園櫻ヶ岡日本美協會陣列舘に於て

會主　小室翠雲

女學雜誌第五百十四號

明治卅四年二月廿五日發行

明治三十二年五月十四日第三種郵便物認可

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第五百十四號

明治三十三年五月十四日第三種郵便物認可

明治卅四年三月廿五日發行

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY